

希
臘

史

略

卷
八

東泉圖卷
三三二二
九冊 号 架 函 屬 類

明治八年五月

希臘史略

文部省

明治八年

希臘史

文庫

希臘史畧卷之五目錄

第十六篇

紀元前四百五十六年十一月

西門ヲ亞地拿ヨリ追放スルノ記

第十七篇

紀元前四百三十八年

ハルセノン及ヒプロビレヲ造營スル

ノ記

第十八篇

紀元前四百二十五年

伯羅奔尼撒戰爭發起ノ記

第十九篇

紀元前四百三十六年

亞地拿府疫疾流行ノ記

名ノ國政ヲ執ルノ記

第三十篇

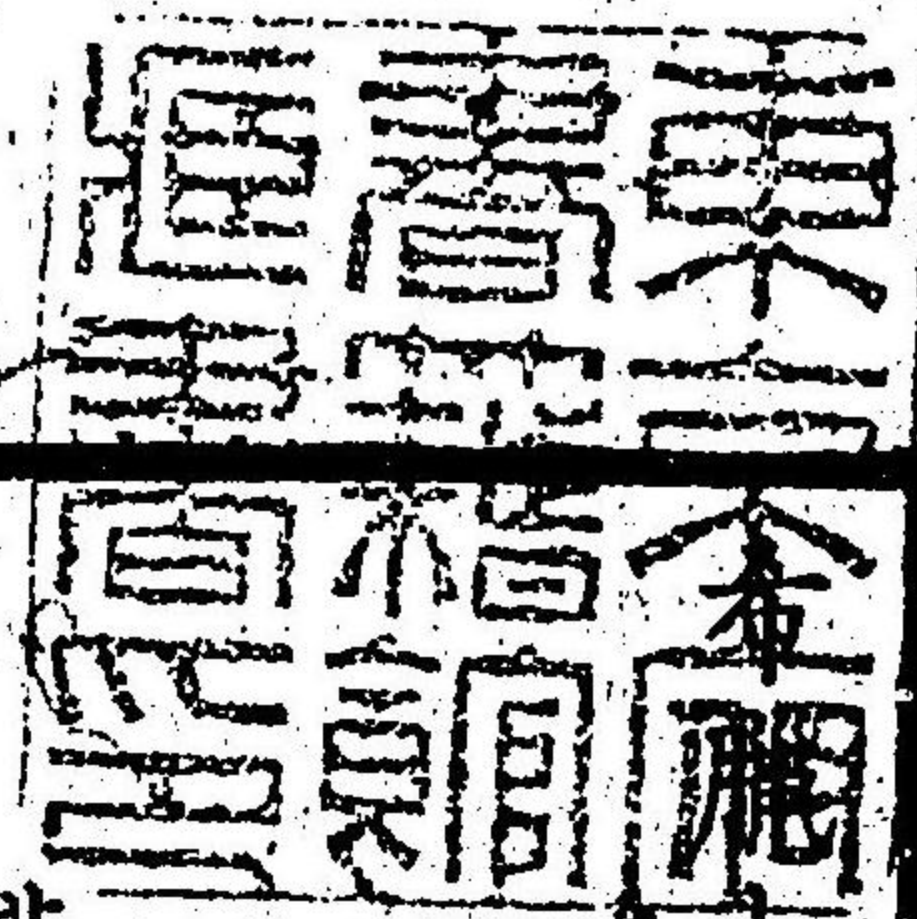
紀元前三百九十九年
孝昭天皇七十七年

索克拉的葉館ノ記

第三十一篇

紀元前四百零一年
孝昭天皇七十五年

一萬ノ希兵退軍ノ記



東洋史略卷之七

第二十六篇

小島銃三郎 譯

前編ニ記載スル如ク亞地拿人ハ西々里ニ於テ
大害ヲ被リタルニ本國ニ於テ毫モ之ヲ知ラス
一朝外國人弁勒烏斯ニ上陸シテ刺舖ニ至リ亞
人ノ大敗ヲ談リケレバ刺子直ニ亞爾干ノ所在
ニ走リ之ヲ報ズ亞爾干乃之ヲ國民會合ノ席ニ
伴テ其顛末ヲ糾問セリ然レドモ初此報知ヲ傳

ヘタル者ノ何人タルヲ知ラザリシカバ妄證人
トシテ嚴責ヲ加ヘタリト云フ後幾クモナク復
數人西々里ヨリ遁逃シ來テ遂ニ其事ノ實ナル
ヲ知リ是ニ至テ唯將來ノ禍難ヲ怖レテ既往ノ
事ヲ憂ルニ違アラズ衆皆以為ラク今我兵ノ希
ノ各所ニ戰フ時ニ當リ斯兵ハ勝ニ乘シテ速ニ
卑勒烏斯港ニ到ルベシト此時亞地拿ハ財貨船
艦兵士共ニ缺乏シテ顧フニ其意氣ノ屈撓スベ
キニ敢テ然ラズ人民ノ勢不幸ニ由リ却テ智慮
ヲ得タルガ如ク忽有識ノ人物ヲ選擇シテ共ニ

事ヲ謀リ新ニ兵艦ヲ造築シ又能ク國用ヲ減節
シテ以テ急迫ノ難ニ備ヘリ
斯巴爾達人ハ慎密ニシテ亞人ノ思慮セシ如ク
直ニ入辰セザレドモ尚多ク利ヲ有シ前ニ既ニ
亞的架内ノテセリ一城ヲ拔キシガ此地亞地拿
ニ近ク突出シテ每ニ敵兵ヲ窘蹙セシムルコト
ヲ得加之今斯人ハ亞ノ附庸タル諸小邦ヲ招懷
シ又亞國ノ強盛ナルヲ厭ヒタル波斯ノ守令ト
盟約ヲ結ベリ此時亞爾時庇的斯ハ斯巴爾達ニ
在テ專ラ事ヲ議シ且亞人ノ勢稍恢復シテ其臣

民及國盟ノ離叛シタル者ヲ罰スルニ及テ數般
ノ攻城野戰ニ拔群ノ勲功ヲ奏セシガ憐ム可シ
民心ヲ収ムルコト能ハズ其國王ノ一人ナルエ
シスハ殊ニ之ヲ惡ミ人民モ亦其叛心アルヲ疑
ヘリ是レ全ク根據ナキニ非ズ原來亞爾峙庇的
斯ノ斯ニ適ケル我國人ヲシテ前日ノ所為ヲ悔
悟セシメ以テ已ヲ追還セシメント欲スルニ因
ルナリ是ノ故ニ亞爾峙庇的斯ハ強テ斯國ノ強
勁熾盛ニ至ルコトヲ欲セズ其勢益隆盛ニ赴ク
ヲ見ルニ及デハ私ニ波斯ノ守令ヲ誘説シテ其

應援ヲ發ニセシム其言ニ曰ク斯亞西國ヲシテ
意ノ如ク爭鬪セシメ而シテ其疲弊スルニ乘ヅ
バ頗波斯ノ利益タルベシト此言ニ因リ大ニ信
義ヲ結ビ尋テ密ニ使ヲ亞地拿ニ遣ヒ言ハシメ
テ曰ク我方今波斯ノ守令ト實ニ親睦ナリ是ノ
故ニ若我ヲ招回シテ其政體ヲ改更セシメバ我
必ス波斯ノ貴族ヲ説諭シテ亞ニ荷擔セシムバ
シト亞爾峙庇的斯ノ術數ヲ以テ志望ヲ達セン
コトヲ圖リ人ヲ欺クコト是ノ如シ
初亞地拿人ハ此事ヲ聽ザリシガ使ノピサンド

三

ルト云フ者國家ノ盛衰ハ全ク波斯王ノ救助ニ
因リ而シテ亞爾峙庇的斯ニ非ズンハ誰カ能ク
其援ヲ求ムルコトヲ得ンヤト云フニ至リ遂ニ
亞爾峙庇的斯ヲ媒トシテ波斯王ト盟約ヲ結バ
ンコトヲ許諾セリ然レモ王ノ要スル所莫大ニ
シテ事終ニ成ラザリシカバ今ハ亞爾峙庇的斯
ハ歸復スル道ナキニ至リケレドモ共和政治ヲ
廢シテ貴族合議ヲ建ント欲スル者ハ獨亞爾峙
庇的斯ノミニ非ザルヲ以テ彼他邦ニ在リト雖
モ此黨相共ニ謀リテ竊ニ衆ヲ誘掖シ勢威官爵

アル者四百名ヲ撰擇シ以テ統御ノ責ニ任ジ又
沙摩斯島ノ政體ヲモ一新セントセリ此島ハ亞
ノ附庸ニシテ當時其軍艦ノ停泊シタルモノ有
レドモ島人及水軍過半ハ舊政ヲ慕念シテ兩黨
大ニ爭隙ヲ生ゼリ是亞爾峙庇的斯ニ在テハ其
最モ希フ所ニシテ原亞爾峙庇的斯ハ強テ亞ノ
政治ノ貴族合議ト共和政治トニ拘ハルニ非ズ
唯我歸復スルヲ主トセリ是ノ故ニ沙摩斯ノ舊
政黨ノ使ヲ亞爾峙庇的斯ニ遣シテ來援ヤンコ
トヲ請ヒケレバ忽之ニ赴キ島人ハ盛宴ヲ設ケ

テ待遇セリ于時亞爾峙庇的斯曰ク我小亞細亞
ニ住スル官司チツサペル子スト云フ者ト親ミ好
ク我ニ言テ曰ク卿若故國ニ歸ルコトヲ得ハ縱
令我宮殿ノ金飾ヲ以テ貨幣ヲ造ルニ至ルト雖
モ必ス亞ノ海兵ニ給與セン且兵艦ヲ提テ來援
スベシト蓋是レ亞爾峙庇的斯ノ虛偽妄談ナリ
其事實ニ於テハチツサペル子ス亞爾峙庇的斯ノ
慇懃スル所ヲ為シ或ハ彼ヲ好シ或ハ之ヲ助ク
ル躰ヲナシテ斯亞ノ間ニ首鼠兩端ヲ持シタル
ナリ然ルニ沙摩斯人ハ其聞ク所ヲ篤信シテ亞

爾峙庇的斯ヲ舉テ大將トシチツサペル子スト條
約ヲ結ハシメン為ニ即チ之ヲ送レリ
此時亞地拿ノ士民ハ新官ノ措置苛酷ナルヲ見
怫然トシテ譴責シ且斯ト歎ヲ通ズルコトヲ疑
フニ至リ其忌惡ノ情日ニ増倍シテ既ニ内訌ノ
形ヲ萌セリ加ルニ又此時斯軍亞ノ附庸ナル憂
卑亞島ノ海上ニ於テ勝利ヲ得其島民ノ悉ク離
叛シタルヲ聞テ驚愕セシコト筆ノ得テ盡ス所
ニ非ズ斯ク内ニハ相互ニ忌惡シ外ニハ敵兵勝
利ヲ得テ社稷將ニ亡ビントス亞人以為ラク急

ニ内國ヲ鎮靜シ且政體ヲ奮軌ニ復セマンバアル可カラズト是ニ於テ衆皆心ヲ一ニ歸シテ彼ノ新官四百名ヲ黜ケ又令ヲ出シテ放流人ヲ追還セシム而シテ後使ヲ沙摩斯島ニ宿陣セル將士ニ送リテ此變更ヲ報ジ且斯ト刺戰ヤンコトヲ請ヘリ

是ニ至リ亞爾峙庇的斯ハ公然推舉セラレテ亞ノ大將ト為リシガ後三年紀元前四百七年ニ至リ始テ亞ニ歸ルコトヲ得タリ此間大ニ國家ニ忠節ヲ盡シ海陸共ニ屢伯羅奔尼撒ノ兵ヲ破リ

就中一全勝ヲ得タリ其時斯ノ士官某短丈ヲ以テ兵士ノ哀シムベキ情態ヲ報ゼリ其語ニ曰ク我輩ノ利運既ニ去リ將帥ミンタールスハ既ニ没シ且兵士ハ將ニ飢餓セントシテ我輩出ル所ヲ知ラズト實ニ之ヲ拉哥尼亞書牘ト稱スベシ

羅塞特蒙一名拉哥尼亞ノ談話ハ簡潔ナルニヨリテ天下ニ響キ今日我輩ノ拉哥尼亞語ハ即之ヨリ出ル者ナリ

亞爾峙庇的斯ハ前章ノ如ク渾テ宿願ヲ達シタレト一點ノ失策アリ自信友ト稱スル波斯ノ守

令ニ苞苴ヲ贈リ以テ斯ト爭端ヲ起サシメシコトヲ謀リシガ尚其盟約ヲ破ルコト能ハズ然レドモ國民ノ愛ヲ收メテ亞地拿ニ歸ルニ及テハ恰勝利ヲ得シ士人ノ如キ勢ニシテ毫モ放流人ノ如クニ非ズ俘囚及財寶ヲ掠奪船ニ堆積シテ鼻勒烏斯ニ入津スルニ當リ群民悉海濱ニ出テ之ヲ迎フ其數殆曩ノ西々里ニ進軍スルトキニ異ナラス皆亞爾峙庇的斯ヲ見恍惚トシテ其既往ノ過失ヲ忘レ唯鼻勒烏斯ヨリ都府ニ到ルマテ歡喜ノ聲囂々トシテ斷エズ既ニ都城ニ達ス

ルニ及ビ亞爾峙庇的斯ハ國民會ノ席ニ臨ミ己ノ冤罪ヲ鳴シテ不幸ヲ嘆息シケレバ之ヲ聽クモノ感動セザルハナレ故ニ其敵黨ハ敢テ論駁スルコト能ハズ是ニ於テ僧尼ヲシテ曩ノ呪咀ヲ拔除セシメ其私有品ヲ復シ金冠ヲ贈與シ其罪狀ヲ記セシ文案ヲ海中ニ投ジ又海陸軍大都督ニ任セリ是ニ及テ亞爾峙庇的斯ハ宿望セシ地位ニ達シ專教法ヲ崇敬シテ其所為頗善良ナリ是ヨリ先キ祭日ニ當リ行列ヲナシテ亞地拿ヨリイリュシ

スニ到ルノ儀式アリシガ斯人ノデゼリ一城ヲ
略取シテ後敵ノ妨害センコトヲ怖レテ暫斷絶
セシヲ亞爾峙庇的斯今再行セシメント欲シ一
隊ノ兵ヲ以テ僧侶及其從者ヲイリュリスニ護送
セリ此城砦ニ據ル斯將ハ之ヲ妨害スル片ハ神
明ヲ蔑如スルト思ヒシニヤ敢テ横遮スルコト
ナシ是ノ如クニシテ亞爾峙庇的斯ハ國民ノ意
ニ應ジ人心ヲ收ムルコト遙ニ往日ニ踰エタリ

第二十七篇

斯巴爾達ニ於テハ亞爾峙庇的斯ノ歸國シクル

ヲ知ルニ及ビ厚ク戰備ヲナシ且彼ト匹敵セル
名將ヲ選バザルコトヲ得ズト思ヒ理撒得ト云
フ者ヲ擢舉セリ其人ト為リ亞爾峙庇的斯ニ似
テ舉止ハ閑雅ナリト雖モ絶テ正廉ノ志ナシ又
此時ニ當リ斯人ノ特絶銳敏ノ將帥ヲ要スル他
事アリ波斯王大流士季子支流士ヲ小亞細亞ニ
送テ其沿海諸國ヲ管セシメ且斯巴爾達ヲ應援
センコトヲ命ゼシニ斯人ハ却テ亞爾峙庇的斯
ノ友侶タリシチッサベル子スノ縱令現ニ盟約ヲ
破解セズトモ心衷ヨリ同盟シタルニ非ザルヲ

以テ今支流士ト共ニ謀テ害センコトヲ危疑ス
是ノ故ニ支流士ノ親睦ヲ保タンガ為ニ敏捷雄
辨ノ士ヲ選ビシガ理撒得ヲ除クノ外誰アリテ
此任ニ適スル者ナカリケレバ理撒得艦隊ヲ率
井テ小亞細亞ニ濟リ是ヨリ薩爾的ニ赴テ支流
士ニ面謁ス時ニ支流士誓言シテ曰ク余假令椅
子ノ金銀ヲ以テ造幣スルトモ斯ノ軍資ヲ缺カ
レノスト理撒得ハ此機ニ乘ジ請テ曰ク我兵ノ
給俸優ナルトキハ敵兵之ヲ望テ我ニ來歸スベ
レ故ニ兵士ノ支給ヲ増加センコトヲ請フト支

流士之ニ答テ曰ク寡人王命ヲ守ラザルコトヲ
得ズ而シテ實ニ貴國ノ戰舟ヲ保タン為若干金
ノ給與ヲ約スト雖モ今卿ガ願フ所ヲ許可スル
ハ我權ノ及ブトコロニ非ズト理撒得ハ固ヨリ
再言スルコト能ハザリシガ此日盛宴ノ未終ラ
ザルニ支流士歡喜ノ餘玉盃ヲ理撒得ニ遞與シ
テ曰ク如何ナル事ト雖モ吾能ク之ヲ諾セム君
之ヲ語レト是ニ於テ理撒得前條ヲ再願セシカ
バ今ハ支流士止ムコトヲ得ズ許諾シテ兵士ノ
給料ヲ増加シ又其他最要ノ財幣ヲ給セリ

亞爾峙庇的斯モ亦強メテ兵艦ヲ増シ且能ク敵ノ舉動ヲ窺ヒシガ宿願ノ將ニ達セントスルニ及ビ勝運蕩然トシテ去ルガ如ク數回ノ戰爭ニ敗走セリ亞人ハ每ニ志氣ノ變ジ易キモノナレバ今ハ亞爾峙庇的斯ヲ非議シテ曰ク彼軍務ヲ其任ニ堪ヘザル者ニ依托シテ其身ハ逸樂放恣ニ耽ルト盖亞爾峙庇的斯ハ常ニ國家ニ力ヲ盡スト雖モ自己ノ榮耀ヲモ亦料ルヲ以テ此言ハ全ク妄談ナラザルベシ是ニ於テコノン代テ司令ヲ執リ亞爾峙庇的斯ハ亞地拿ニ歸ラズレテ

ケルソ子レヌスニ航去セリ是亞爾峙庇的斯ハ豫人心ヲ維持スルコト能ハザルヲ察シ前日此地ニ城砦ヲ築キタル故ナリ

コノン其他同寮九名ハ明年慘酷ノ宛刑ヲ被リテ之カ為、天下ニ高名トナリタレドモ今先理撤得ノ事ヲ説クベシ理撤得ハ私欲アリテ野心ヲ抱クガ故ニ自己ノ威權ヲ增長スルニ非ザルヨリハ毫モ國家ノ名聲ヲ顧ミズ此時尚軍艦ヲ督レテ小亞細亞ニ在リ敢テ行戦ノ備ヲセズ此部内ノ希臘諸邑ノ長官ト契約ヲナシテ互ニ相應

援レ亞ヲ擊破シテ然ル後共ニ其君主ト為ラン
コトヲ謀リシガ未事ノ成ザルニ先ダチ司令ノ
期限既ニ満テ他將カリクラーチーデス之ニ代レ
リカリクラーチーデスノ人ト為リハ甚理撒得ニ
異ナリ豪邁ニシテ德義ヲ備ヘ毫モ私欲ノ心ナ
ク真ニ國家ノ為ニ心志ヲ用フ理撒得ハ深ク之
ヲ嫉忌シ飽マテ窘困セシメント欲シテ前日波
斯ノ王子ヨリ給與セシ財貨ヲ悉ク還納シ又同
盟ヲ誘説シテ其援ヲ止メシカバ此ガ為カリク
ラチーデスハ大ニ困却レ止ムコトヲ得ズ軍資

ヲ請ハンカ為薩爾的ニ行テ支流士ニ面謁ヲ請
フ支流士ハ謁ヲ通ズル毎ニ明日面會スベシト
言テ數日遷延セリ一日カリクラーチーデス又殿
階ニ至リ謁見センコトヲ請ヒケレバ今正ニ盃
盤ニ對スト言テ之ヲ聽カズカリクラーチーデス
曰ク然ラバ余酒宴ノ終ルヲ待タント時移リ日
暮ルト雖モ前日ニ異ナラザレバカリクラーチー
デス終ニ倦怠ニ堪ヘズ希人ノ伏テ金錢ヲ野蠻
ニ請フコトヲ喟嘆シ又無異ニ故國ニ歸ルヲ得
ハ勉テ亞地拿ト和議ヲ講セント言テ退去セリ

苟^モカリク^ラチーデス生存セバ斯亞ノ不幸モ亦
恐ラクハ相異ナルベシ惜哉今年アルギニーセ
ノ近海ニ戦死セリ

相傳フ是ヨリ先キ識言者某カリク^ラチーデス
ニ告テ曰ク凶兆見エタリ將軍恐クハ殺害セラ
レント然ルニカリク^ラチーデスハ毫モ之ヲ意
トセズ之ニ答テ曰ク我死ストモ何ゾ愧ヂン若
シ遁逃セバ汚名ヲ千載ニ遺サント
アルギニーセノ戦ハ未タ曾テアラザル斯亞ノ
大海戦ニシテ亞人ハ全勝ヲ得タリト雖ドモ夥

多ノ兵士ヲ失ヒ此ニ由リテ夫ノコノン等冤罪
ヲ被ルニ至レリ亞ノ士民ハ捷ヲ欣ビ厚ク奴僕
ノ戦功アルモノヲ賞スト雖モ亦誹謗シテ曰ク
苟モ諸將注意シテ破艦ノ士卒ヲ放棄セズンハ
斯ク人命ヲ害フニ至ラザラント又死者ヲ葬ラ
ズト云ヒ器々トシテ訴ヘタリ然レドモ其實諸
將ハ敵兵ヲ追討スルヲ以テ至當ナリトシ裨將
ニ遺命シテ死傷ノ輩ヲ注意セシメンニ適颯風
起リテ裨將其命ニ從フコト能ハズ故ニ止ムコ
トヲ得ズ放棄セシナリゼラメ子スハ其裨將中

ノ一人ニシテ諸將ニ罪ヲ負ハシメタリ諸將ハ
鞫問セラル、ニ臨テ明白ニ事實ヲ述テ曰ク若
誰ガ咎ナリトセバ其過失ハ裨將ニアル可クシ
テ確然諸將ニアラスト是ニ於テ證人ヲ招集セ
シニ皆其言ノ真ナルヲ告ゲ人民モ亦諸將ヲ助
クル勢ナリシガ憐ムベシ既ニ薄暮ニ及ビ揚手
シテ罪ノ有無ヲ裁断スルノ多寡ヲ辨ズルコト
能ハザリケレバ此日ハ糺問ヲ止メテ數日ヲ遷
延シ再會議ヲ開キタリ然ルニゼラメ子ス及他
ノ敵黨百方策ヲ盡シテ諸將ヲ忌惡セシメ遂ニ

此役ニ親戚友侶ヲ失ヒシ者ハ皆諸將ニ罪ヲ負
ハシムルニ至レリ某曰ク余ハ飯桶ニ依リテ辛
ク免カル、コトヲ得タレドモ憫ムヘシ傍ニ友
侶ノ沉没スル者多ク余ニ哀求シテ曰ク君倘命
ヲ全ウスルコトヲ得ハ諸將ノ放棄シテ我輩ノ
死ヲ顧ミザルコトヲ國人ニ告ヨト衆此言ヲ聽
キ憤怒ノ聲愈甚シウシテ諸將ヲ助クル者アリ
ト雖モ其言ヲ聽ク者ナク議貞中獨屈セサルモ
ノハ彼ノ廉直ニシテ膽カアル理學士索克拉的
ノミナリ索克拉的ハ飽マデ糺問ノ方法正律ニ

當ラザルヲ論駁シ敢テ之ニ與セザリシガ實ニ
衆口金ヲ鑠スノ勢ニシテ一人ノ聲群民ノ聲ヲ
壓スルコト能ハズ遂ニ八名ノ將帥死刑ニ定斷
セラレ其中六名ハ此席ニ居テ立トコロニ斬ニ
就ケリ

第二十八篇

前篇ノ如ク亞人冤枉ヲ以テ諸將ヲ刑戮シ其慘
忍謂ベカラザル措置ヲナシハニ因リ終ニ國家
ノ滅亡スルニ至レリ後幾ナラズ其冤刑タルヲ
知ルニ及ビ大ニ輕卒ノ所為ヲ悔悟シ乃テ罪ヲ負

ハシメタル者ヲ死刑ニ處センコトヲ議定セシ
ガ既ニ斬セラレタル者ノ性命ヲ蕪スルコト能
ハズ又罪ヲ訴ヘタル者モ既ニ逃走シテ其所在
ヲ知ラズ渾テ無益ニ屬セリゼラメ子スハ終ニ
天罰ヲ被ルニ至レドモ當時ハ尚依然トシテ民
心ヲ保テリ

アルギニ一セ戰爭後一時亞ノ海兵ニ抵抗スル
者ナカリシガ明年ノ首夏ニ及ビ里撒得復斯ノ
大將ト為テ相抗スルニ至レリ抑水師提督ノ號
ヲ再稱スルハ斯ノ制度ニ於テ許サバル所ナレ

ハ今理撒得其号ヲ得ズト雖モ支流士ノ援助ヲ
得タルヲ以テ其勢力前日ニ異ナルコトナクシ
テ戰フコトヲ得タリ此戰ハ終ニ伯羅奔尼散ノ
久戰ヲ決シテ之ヲエゴスポタミノ戰ト云フ然
レドモ整戰ト稱スベキ者ニ非ズ且亞人弛怠セ
ズンバ恐ラクハ發生セザル者ナリ則初^チ迭ニ海
邊ニ沿テ追攻セシガ適亞人エゴスポタミニ上
陸シ間隙ヲ窺ヒテ糧食ヲ求メン為ニセストス
ニ赴キシニ斯人ハ之ヲ視察スレドモ敢テ妨害
セザリケレバ亞人ハ益弛怠シテ他日復上陸シ

更ニ遠ク此國ヲ徘徊セリ亞爾峙庇的斯ハ其海
岸ノ近傍ニ在テ城櫓ヨリ亞人ノ外張大ニシテ
内空虚ナルヲ見乃之ヲ警戒セン為ニ海邊ニ至
リ諸將ニ告ゲテ曰ク卿等且シク友情アルセス
トスニ轉陣スベシト諸將ハ敢テ之ニ聽從セズ
答テ曰ク我々將帥ナリ汝ノ知ル所ニ非ズト故
ニ亞爾峙庇的斯ハ居城ニ歸リ敢テ顧ミザリシ
ガ亞人ハ尚悠然トシテ意ノ如ク徘徊セリ第五
日ニ及ビ理撒得并候船ニ乗ジテ曰ク敵兵ノ徘
徊スルヲ見バ倏然海峽ノ半ニ歸リ皆ヲ揚テ之

ヲ報ズベシト此報ニ由リ全艦忽輻輳シテ敵船
ヲ進撃セリ亞ノ將帥中コノン獨危ヲ察シテ航
去セシガ他ノ將士ハ遠地ニ離隔シテ乗船スル
暇ナク艦中殆空虚ナルガ故ニ敵兵輒攻取スル
コトヲ得タリ又一隊ハ上陸シテ亞人ノ諸方ニ
赴キタル者ヲ追テ過半之ヲ擒トナシ嘗テ被リ
タル慘毒ヲ報イント欲シテ三千ノ衆ヲ悉ク殺
戮セリ

コノンハ遁走スルニ當リ我愛國ノ情ヲ表セン
ガ為ニ敵船ノ帆ヲ擦テシパリュスニ潜匿シ亞地

拿ニ歸リシ者ハ僅一艘ノミナリ
此船夜中卑勒烏斯ニ達セシニ新報忽チ四方ニ
蔓延シテ群民市街港濱ニ充盈シ慨嘆ノ聲天ニ
震ヒ此夜ハ一人モ眠ニ就クモノナカリシト云
フ實ニ喟嘆スベシ其依頼スル所ノ軍艦ハ悉ク
摧破セラレ且之ヲ再造スル術ナクシテ往後相
敵スルコト能ハズ唯理撒得ノ來リテ攻圍スル
ヲ待ノミナリ

理撒得忽來テ亞地拿ヲ海陸ヨリ圍ミケレバ城
中ヨリ使ヲ遣ハシテ講和ノ議ニ及ビシニ亞地

拿ヨリ卑勒烏斯ニ連ル長壁ヲ崩壞スルニ非ガ
 レバ敢テ和ヲ聽サズ然レドモ此長壁ハ最亞地
 拿ノ捍衛トスル所ニシテ殊ニ波斯戦争ニ勝テ
 勝心燃ルガ如キ時ニ當リテ建築シタルモノナ
 レバ今之ヲ崩壞レ肯ゼズ故ニ攻圍尚依然トシ
 テ將ニ餓死セントスルニ至レリ是ニ於テ亞人
 再和議ヲ講ゼシニ更ニ前議ニ異ナラズ遂ニ長
 壁及卑勒烏斯ノ城若ク毀壞レ僅ニ十二艘ヲ除
 クノ外咸ク船舶ヲ遶與シ又斯ノ賦役ニ從フノ
 約ヲナスニ至レリ理撒得ハ意氣揚々トシテ卑

勒烏斯ニ入津シ歡欣ノ樂ヲ奏シ又外國人ハ華
 冠ヲ戴キ其装恰モ祭日ノ如クニシテ怡然トシ
 テ長壁及堅城ノ頽壞セララル、ヲ覽タリ斯人ノ
 曰ク今日希國自由ヲ得ルノ濫觴ナル可シト然
 レドモ當時苟將來ヲ先見スル者アラバ此舉動
 ハ當ニ亞地拿ノミナラズ希臘國滅絶ノ龜鑑
 トセン

第二十九篇

理撒得亞地拿ノ城壁ヲ破壞シテ後其法度ヲ創
 定シ新ニ三十名ヲ撰擇シテ隨意獨裁ノ權ヲ與

へ以テ統御ノ責ニ任じタリ夫ノ諸將ニ罪ヲ負
ハシメタルゼラメ子スハ即其一人ニシテ亞地
拿落城ニ先ダテ理撒得ノ寵遇ヲ得タレバ今
斯人ノ之ヲ待スルコト友侶ニ異ナラザレドモ
日ナラズレテ隙ヲ生ゼリ抑ゼラメ子スハ性奸
惡ナリト雖モ同寮ノ如ク慘忍ノ徒ニ非ラザル
ヲ以テ直ニ其措置ノ殘虐ナルヲ忌嫌スルニ至
レリ理撒得ハ政體ノ確定スルニ及テ即纜ヲ解
テ沙摩斯ヲ征シテイレントハ亞地拿ニ遺留シ
テ頗苛政ヲ施セリ

テイレントハ亞人ノ昔時不羈ニシテ盛大ナリ
レコトヲ追懷セザラシノンガ為ニ從來會主ノ
沙拉密斯島及海面ヲ目指シテ談説シタル石壇
ヲ他方ニ移セリ然レドモ猶曩ニ亞人ノ波斯ニ
克テ萬邦ニ冠タリシ盛時ヲ遺忘セシムルコト
能ハズ又亞人ノ自由ヲ貪戀スルニ至リシハ半
ハテイレントノ行蹟ニ由ルナルベシテイレ
トノ苛虐倍増長シ寃罪ヲ以テ刑戮ニ處スルモ
ノ少ナレトセズ然レドモ此徒ハ皆卑賤ノ惡漢
ニシテ人其刑ニ違ヒシヲ喜ビシガ其後ニ至リ

テハ只舊政ヲ眷戀スルノミニテ捕縛セラレ亦
 皆考掠セラレテ刑戮ニ逢ヘリ當時重大ノ官職
 ハ渾テ暴吏ノ掌中ニ在ルヲ以テ人之ヲ障碍セ
 ズ理撒得亞地拿ニ歸ルニ及ビ始テ其殘酷ノ處
 置ヲ抑裁セリ亞ニ於テ善良才智ノ士ハ悉ク擯
 扶セラレテ刑戮ニ逢ヒ國人モ止ムコトヲ得ズ
 テーレントヲ扶ケシガ獨索克拉克的ハ之ヲ忌惡
 レ嘗テ無辜ノ人ヲ捕縛セシメントテ沙拉密斯
 行ヲ命ゼラレシガ之ヲ他人ニ托シテ自郷里ニ
 歸リ敢テ暴吏ノ命ニ從ハザリシト云フ

クリチヤスハ嘗テ索克拉克的ノ門弟タリシガ其
 教諭ニ服セズテーレント中特ニ奸惡ナル者ニ
 シテゼラメ子スノ爭論ヲ起セシハ此人ナリ今
 爰ニ此爭端ヲ陳述セン亞地拿ニ殘レル金銀實
 ニ僅少ナリケレバテーレントハ神堂ノ財寶ヲ
 掠奪シ猶之ヲ以テ足レリトセズ其府中ニ居住
 スル富饒ノ外國人ニ各罪ヲ負ハシメ之ヲ刑戮
 ニ處シテ其財物ヲ奪ハント協議シゼラメ子ス
 ヲ招誘シテ此兇謀ニ與セシメントスゼラメ子
 スハ畢生ノ惡事甚多シト雖モ遂ニ斯兇謀ニ與

セズ是ヲ以テ同寮ハ意ヲ決シテ之ヲ除去セン
トセリ
テイレントハゼラメ子スヲ遁去セシメザラン
ガ為ニ百方策ヲ設ケ會合ノ期日ニ至テ短劍ヲ
勇敢ノ徒ニ携帶セシメ議院ヲ繞圍セシメテ後
クリチヤス席ヲ立チゼラメ子スヲ護ムルニ社
稷ニ於テハ叛逆人又政府ニ於テハ仇敵タルヲ
以テスゼラメ子スハ飽マデ辯解スレドモクリ
チヤスハ断然之ヲ死ニ處センコトヲ決意シ鍛
鍊シテ遂ニ之ヲ罪ニ陷レ獄吏ヲ呼出シテ直ニ

毒藥ヲ飲マシメタリゼラメ子スハ終ニ善道ヲ
以テ死シタレバ吾儕之ヲ憫傷スト雖ドモ其他
人ヲ處スルニ齊シキ刑戮ヲ被ラシメタルコト
ハ亦烏ソ之ヲ忘ルベケンヤ
ゼラメ子スノ死後幾バクモナク又一ノ敵士ヲ
除ケリ阿爾峙庇的斯ハ外國ニ走リタル者ト均
シク亞地拿滅亡ノ後歸來セザレバテイレント
ハ疑念ヲ懷キテ其還ルコトヲ禁ゼリ亞爾峙庇
的斯ハ歐洲ニ在リテ危殆ナルヲ慮リ亞細亞ニ
渡リテ波斯ノ巨首某氏ノ家ニ伏匿セシガ一夜

其寢室ニ放火スルモノアリ駛キテ突出スレバ
 兵器ヲ持スル者ノ為ニ圍繞セラレテ立ドコロ
 ニ殺害セラレタリ或人曰ク是波斯ノ守令ノ為
 シムル所ナリト又或人曰ク亞爾峙庇的斯ニ遺
 恨アル者復讐セシナリト亞爾峙庇的斯ニ一子
 アリ名ヲ父ト同ジウス然レドモ才能遙カニ劣
 レリ
 斯ク悉ク敵徒ノ死スルニ及デテイレントノ殘
 忍更ニ增長スレドモ亦久シク其惡虐ヲ施スコ
 ト能ハズ外邦ニ留在スル者ノ中ニ卓識ニシテ

德義アルストラブルスト稱スル者已ニ伯羅奔
 尼散戰爭ニ逸群ノ功ヲ奏シテイレントガ亞ノ
 居民ヲ慘刺ニ追放シタル時デ德巴斯スニ居テ國家
 ノ痛傷スルニ堪ヘタル事ヲ聞キ決然トシテ之
 ヲ濟救セント欲シ德巴斯ノ友黨ハ之ヲ助クル
 ニ矛戟金銀ヲ以テシ又放流人七十名之ニ合セ
 リストラブルス此寡少ノ兵ヲ督シ國境ヲ横遮
 シテパル子ス山ノ斗出セル所ニ築ケル城砦ヲ
 略取ヤリ此城ハ亞ヲ距ルコト僅カ十二三里ニ過
 ギス

テールレントハスル寡少ノ敵ハ一擧ニシテ拉キ
得ベシト思ヒ初ハ敢テ恐怖セザリシガ既ニ之
ヲ攻撃スルニ至テハ全ク計算セシ如ク容易ニ
非ズ最初ノ攻城ニ追却セラレ時ニ飛雪天ヲ覆
フニ逢ヒ止ムコトヲ得ズ亞的架ニ歸來セリ其
後スラレブルスハ更ニ他國ニ在ル許多ノ者ト
連合シテ敵ノ圍ミヲ衝潰スルコトヲ得、遂ニ卑
勒烏斯ニ於テ一戰ヲ為シニクリチヤス戰歿ス
スラレブルスハ深ク敵兵ヲ憫ミ自己ノ要スル
所ノ武器ヲ除クノ外ハ毫モ掠奪スルコトナシ

而シテ迭ニ屍ヲ交換スルトキスラレブルスニ
荷擔セラル者此機ニ乗ジ大聲ヲ發シテ黙靜ヲ警
シ亞人ニ告テ曰ク爾後苛虐ナルテールレントニ
服事セズシテスラレブルスニ属スベシト此言
大ニ人心ニ感徹ス敵將ハ其効驗アランコトヲ
洞察シ兵士ヲシテ之ヲ聽カシムルヲ欲セズ
乃率井テ都府ニ歸レリ
此ニ至リテテールレントハ蹙然トシテ恐レ亞地
拿ヲ去リテ以流西ニ退キタルヲ以テ新ニ十名
ヲ推選シテ同官トナス然ルニ此更革スラレブ

ルス及其黨與ノ裨益トナルコトナク新官ノ此徒ヲ逆待スルコト亦テイレントニ異ナラズ以流西及亞地拿ヨリ援ヲ斯巴爾達ニ請テスラシブルスヲ掩撃センコトヲ謀レリ此時理撒得ハ斯ニ居テテイレントヲ左右センコトヲ欲スレドモ國人大ニ妬忌シテ援兵ヲ招募スルヲ得ズ然レドモ心中竊ニ此舉ノ成功セザランコトヲ希ヘリス王ノ一人ナルボウサニヤスハ陽ニスラシブルスが據有セル昇勒烏斯ヲ攻圍センコトヲ表シ大軍ヲ率井テ理撒得ト共ニ亞的架ニ

進入セシガ陰ニ款ヲ通ジ敵心ナキコトヲ表シ和議ヲ請ハシメタリ既ニ和議ヲ請フニ至リテニヤスノ同姓某氏ハニシヤスが裔孫ノ幼児若干名ヲ伴テ斯ノ陣營ニ來リ一名ヲ王ノ膝ニ載セ他ヲ其傍ニ置キ懇願シテ曰ク憐ムベシ此幼児ハテイレントノ為ニ父母ヲ失ヒテ今誰モ養育スル者ナシ故ニ請フ殘忍ノ徒ヲ退ケヨト此ニヨリテ理撒得及其友黨ヲ除クノ外全軍皆承諾シテ先之ニ休戦ヲ許シ既ニシテ使ヲ斯ニ遣ハシ確然タル和議

ノ條約ヲ結ビテ亞入ノ自由ヲ恢復シ其欲スル
所ノ政體ヲ創定セシメタリ
此條約ノトキ廣ク天下ニ和親ヲ告クト雖モ獨
テ一レント及其他ノ政權ヲ弄セシ者ヲ省キタ
レバ此徒ト以流西ニ泰然トシテ居ルコト能ハ
ズ斯ク事ノ齊整スルニ及ビポウサニヤスハ兵
ヲ解キ放流人ハ揚々トシテ府中ニ入り其守護
ノ女神アテンニ賽謝ノ禮ヲ表シテ犠牲ヲ供セ
リ亞人今ハ自由富強前日ノ如クナラズト雖モ
苛刺慘毒ヲ免レタリトテ大ニ之ヲ悦ビテ一レ

ントハ爾ク權威ヲ奪ハル、コトヲ甘ゼス屢之
ヲ復サンコトヲ謀レドモ其所為無益ニ屬シテ
終ニ悉殺戮セラレタリト云フ

第三十篇

亞地拿人ハ暴官ノ治下ニ在テ幾多ノ辛苦ヲ嘗
メタレバ自然舊政ヲ眷戀スルニ至リ初國民會
ヲ開クニ及テ直ニ政律復古ノ事ヲ議定セリ然
ルニ法制ヲ釐革シ舊習ヲ恢復スト雖モ前日ノ
如ク隆盛ナラシムルコト能ハズ國用既ニ竭キ
藩屬ノ地モ失ヒ加フルニ斯人ハ其國力ノ復ス

ベキヲ恐レテ大ニ猜忌ノ色ヲ顯ハシ又士民ノ
風俗澆漓ニ至リシコト勘ナカラズ往々社稷ノ
利害ヲ顧ミズ自己ノ得失ヲ謀リ権柄アル者ハ
謾ニ賄賂ヲ貪リテ不理ノ裁決ヲナシ豊富ノ徒
ハ寃罪ヲ蒙リテ官府ノ為ニ其貨財ヲ禱ハレタ
リ又其經營ニ於ケル官途ニ就ケル者ハ甚奢リ
閑散ニ在ル者ハ尤貪シ然レドモ人心悉^ク泥土ニ
染ミタルニ非ズ往々時事ノ弊害ヲ慷慨シ心志
ヲ盡シテ之ヲ矯正セントスル者アリ就中アリ
ストパ子スト云フ俚歌ノ作者アリ此人ノ賦ハ

文部省

機智洒落ノ事多クシテ極メテ人心ヲ慰ムト雖
モ其實ハ鄭重ノ意ヲ含テ國人ノ弊惡ヲ諷セリ
索克拉的モ亦國人ヲシテ淳朴ナラシメ且聖教
ヲ遵奉セシメント黽勉シタリ然レドモアリス
トパ子スハ索克拉的ト親厚ナラズクロージツト
稱スル一篇ノ稗史ヲ著述シテ索克拉的及其門
人ノ事ヲ掲ケテ之ヲ嘲笑セリ
其原由ヲ考ルニ蓋アリストパ子スハ索克拉的
が説教ヲ了解セズシテ只ソピスツト稱スル兇
徒ノ一人ナリト思惟セシナラン夫ソピスツハ

論說ニ巧ナリト雖モ教法ヲ崇敬セズ且是非ヲ
辨別セズシテ己ガ欲スル所ニ僻シ常ニ喋々ト
論說スルヲ以テ可トス所謂ソピスチカール語
ハ之ヨリ出ル者ナリ其意ハ不理ノ行事ヲ文飾
シテ正理トナス者ヲ謂フナリ
抑モ索克拉的ハ全クソピスツニ非ズト雖モ其
實ハ國教ニ違背シ唯皇天上帝ノアルコトヲ確
信シ敢テ國教ヲ不善ナリトシテ之ヲ拒ガザレ
ドモ其上帝ノ事ヲ談ズルニ當テハ國人之ヲ邪
教トナシ終ニ之ガ為ニ怨謗ヲ招クニ至レリ

索克拉的ノ誅斥セララル、コト既ニ多年ナリシ
が紀元前三百九十九年即彼ノテイレントヲ驅
逐シタル後二年ニ至リ断然之ニ罪ヲ負ハシム
ルニ至レリ此時舊教ヲ維持セント欲スル者建
議シテ曰ク索克拉的ハ國教ニ背テ新教ヲ遵奉
シ加ルニ少年ヲ教導シテ蠱惑セシムル罪人ナ
リ故ニ其刑死ニ當スト
顧フニ索克拉的ハ當初ヨリ後來刑戮ニ逢ハン
コトヲ知り極メテ討論辨解スレドモ時人ノ如
ク叩頭シテ罪ヲ謝セズ賛賞セラレンコトヲ要

セリ今衆人ノ索克拉的ヲ惡ムコト仇敵ノ如ク
嘗テ國家ノ大害ヲ起シタル亞爾峙庇的斯及ク
リチヤスノ師タルヲ通知シテ誰モ索克拉的ガ
兩氏ノ惡弊ヲ矯正セシコトヲ追想スル者ナク
且テ^レレントノ為苛虐ヲ被リタルヲ銘記ス故
ニ索克拉的ノクリチヤスニ於ケルガ如キ^レテ
レントト毫モ關係アル者ハ怨忌シテ指斥セザ
ルハナシ

是ニ於テ索克拉的ヲ死刑ニ判シ毒劑ヲ吞マシ
ム索克拉的ハ之ヲ懷キ泰然トシテ敢テ怖ル、
色ナシ其友深ク冤枉ニ死スルヲ悼惜シテ飲泣
スレバ索克拉的莞爾トシテ之ヲ慰シテ曰ク足
下ハ何ソ余ヲ刑戮ニ處スル者ナランヤ又余ガ
敵黨ハ余ヲ殺ストモ余ノ聲名ヲ汚スコト能ハ
ズト當時^レデロニ於テアポロノ殿堂ニ每歲一次
例シテ物ヲ送ル此供物ヲ運輸スル間ハ渾テ刑
罰ニ處スルコトヲ禁ズ今會、此期ニ際シ索克拉
的ハ三十日間處刑ヲ遷延セラル此時朋友ノ道
逃センコトヲ勸說スル者多シ然レドモ彼其歲
既ニ七十二及ビ且從來固守セル法令ヲ破リテ

以テ長カラザル餘命ヲ全ウスルニ足ラズトシ
終ニデロヨリ船ノ歸帆セルコトヲ聞キ毫モ狼
狽セズ將來ノ冥福ヲ談リテ此日ヲ消セリ
黄昏ニ至リ毒液ヲ飲ムノ期近ヅキケレバ其断
金ノ友クリット之ニ問テ曰ク卿ハ如何ニシテ埋
葬セラレンコトヲ欲スルヤト索克拉的答テ曰
ク足下倘余ガ靈魂ヲ掌握シテ脱セシメズンハ
足下ノ意ノ如クセヨト其他ノ朋友ニ向テ曰ク
クリットハ余ガ魂ト魄トヲ合一ノモノナリトシ
テ余ニ如何ニシテ埋葬セラレンコトヲ欲スル

ヤト問ヘリト

索克拉的ハ既ニ毒盃ヲ齎ラシ來レルヲ見テ毫
モ顔色ヲ變ヤズ之ヲ把テ暫時黙禱シ盡ク吞ミ
タリ其友之ヲ見テ涕淚滂沱タリケレバ索克拉
的警戒シテ曰ク凡、死ニ臨ミ從容トシテ諸神ニ
謝シ而シテ世ヲ去ルハ人ノ道ナリト須臾ク其
室ヲ徘徊シテ後毒ノ為ニ瞑眩シテ床ニ伏シ其
面ヲ覆ヘリ然レドモ今ヤ絶命ニ至ラントスル
ニ及び其覆ヲ啓發シクリットヲ呼テ曰ク汝エス
クラピウス藥神ノ名ニ至當ノ供物ヲ獻ゼヨ今余ガ

為ニ之ヲ行ヒ敢テ怠ルコト勿レト
索克拉的が最終ノ遺言是ノ如シ吾人ヨリ之ヲ
見レバ奇異ナリト雖モ亦以テ索克拉的モ飽マ
テ教法ノ道ヲ盡サント欲シタル誠心ヲ證スル
ニ足レリ

亞地拿人ハ舊ニ依リ時日既ニ過ギテ其輕卒ノ
擧ヲ悔悟シテ其罪ヲ負ハシメタル者ヲ死刑ニ
處シ或ハ之ヲ追放セリ加ルニ有名ナル彫刻者
リレップスが製作シタル青銅ノ肖像ヲ以テ都府
ノ四通八達ノ地ニ安置シ又寺院ヲ建立シテ恰

神祇ノ如ク終ニ士民擧リテ崇敬スルニ至レリ

第三十一篇

今茲ニ還テ索克拉的ノ死スル前年希兵ノ波斯
征討ノ事ヲ説クベシ此事蹟ハ一國ノ史ニ屬セ
ズト雖モ希兵ノ奮勇艱苦一將帥セノッポンノ精
練トニ由リテ天下ニ高名ナル者ナリ

此擧ハ原支流士ノ兄阿爾多澤耳士王ノ位ヲ奪
ハンコトヲ謀リ希兵ノ之ヲ應援シタルニ起レ
リ血統ヲ以テ論ズルトキハ阿爾多澤耳士當ニ
繼テ立ツベキ者ナレドモ其母パールサチス厚ク

支流士ヲ鍾愛シテ遂ニ其叛逆ヲ媒孽シタルナ
 リ
 支流士ハ既ニ斯巴爾達及希諸邦ノ事件ニ關涉
 シテ其豪勇ニシテ才能アルコトヲ知ラレ今叛
 ヲ謀ルニ至リ希人ノ助力ヲ假ルトキハ必ス元
 位ヲ篡ヒ得ント思ヒ自然希人ニ倚頼セリ當時
 支流士ハ小亞細亞諸州ノ官司ニシテ希人中ニ
 居住シ且其品行温雅ナルト其勇敢ナルトニ因
 リテ衆皆舉テ之ニ歸依シ特ニ數般ノ過失ノ為
 ニ國ヲ去リタル斯人クリールチユースハ親ミ好

ク理撒得モ亦信朋タルヲ以テ專ラ威權ヲ籍リテ
 之ニ荷擔セリ此ニ由リテ終ニ斯ノ政府ヨリ支
 流士ガ亞細亞買諾ニ於テ招募シタル軍兵ニ併
 合セン為ニ船艦兵士ヲ送ルニ至レリ
 支流士ハ此機ニ至リ尚真ノ志趣ヲ明シ肯ンゼ
 ズ衆人皆以為ラク支流士ハ亞細亞買諾ノ叛州
 ヲ征討スルナリト加之軍兵既ニ集合シテ支流
 士ガ所在薩爾的ヨリ進發スルノ期ニ至リテ尚
 過半ハ其為ス所ヲ知ラズ然レドモ漸次進行ス
 ルニ從ヒ支流士ガ叛州ヲ征スルノ意ニアラガ

ルコトヲ疑ヒ是ニ於テ希兵ハ前程ニ從行スル
 ヲ欲セズ乃曰ク吾儕支流士ニ陪從スルハ豈波
 主ニ對シ干戈ヲ接スル為ナランヤトクリール
 チニスノ兵士ハ特ニ激怒シテ其勢之ニ瓦石ヲ
 投射セントスルニ至レリ

是ニ於テクリールチニスハ兵士ニ諭シテ曰ク
 汝カ欲セザル所ハ余モ亦欲セザルナリト然レ
 氏支流士カ其兄ニ叛スルコト未灼然タラザル
 ガ故ニ再從行セリ

亞爾多澤耳士ハ支流士カ籌策ヲ洞知シ大軍ヲ

招募シテ斷然之ト戰フ準備ヲナス支流士及希
 兵ハ久倦ノ旅行ニ崎嶇ヲ凌ギ巴庇倫ヨリ凡ソ
 六七十里ナルクナキサト稱スル村落ニ於テ相
 會セリ

此時ニ至リ希兵始テ敵ノ何モノタルヲ的知ス
 レドモ支流士ハ多ク甘言美語ヲ用ヒ且重賞ヲ
 懸ケテ之ヲ慰懷シ又諸將ニ勸說シテ曰ク卿等
 我が見ル所ハ彼ノ蠻夷ノ全軍ニ遙ニ過越セリ
 冀クハ之ヲ證セヨ又接戰シテ恐ルベキ者ハ啻
 ニ喚呼ノ聲ノミナリト之ニ次テ曰ク余實ニ亞

細亞人が喚呼ノ聲ヲ除クノ外ハ事細大ト無ク
希ノ諸將ガ視テ以テ卑陋トセンコトヲ回想スレ
ハ慚愧ニ堪ヘズト

兩軍相會スルニ先ダチ阿爾多澤耳士ノ戰ハン
ト然ラザルトヲ疑フ者アリクリールチューズ支
流士ニ問テ曰ク卿此事ヲ如何カ考思スルヤト
支流士ハ全ク阿兄ヲ戰ハズトナシ之ニ答テ曰
ク若阿爾多澤耳士ガ果シテ大流士トパリサッ
スノ子ニシテ余ノ兄弟タラバ必ズ戰ハズンバ
其領地ヲ得ルコト能ハザル可シト進テクナキ

サニ達シ將ニ兵ヲ止メテ憇休セントスルニ臨
ミ其黨與ノ波斯ノ裨將某疾ク陣營ニ馳セ來リ
相逢フ人ニ叫ンデ曰ク官軍隊伍ヲ整テ既ニ近
ヅキ來レリト此報知ヲ聞キ皆天ヲ仰テ驚嘆セ
リ蓋希兵ハ久旅ノ為紀律大ニ亂レタレバ今之
ヲ復スルニ先ダチ王ノ掩撃センコトヲ畏レテ
ナリ是ニ於テ支流士ハ忽チ車ヲ降リテ甲冑ヲ
擐シ馬ニ跨リテ士卒ヲ令シ以テ戰列ヲ整ヘ六
百ノ騎士ヲ督シテ自ラ其中心ニ立チ整ニ代フ
ルニチアラ昔時波斯ノ冠ノ名ヲ用ヒテ騎士ト識別セリ

午後ノ半ニ至リ塵全雲ノ如ク起リ現ニ官軍ノ
迫リ來ルヲ報ゼリ既ニシテ日光ニ映ジ時々燦
爛光輝ヲ放チ進來スル者ヲ見タリ然ルニ何ゾ
料ラン支流士ノ諒察ニ及シ敵軍寂トシテ聲ナ
ク却テ希兵ハ且歌ヒ且呼デ敵ノ兵馬ヲ威セリ
既ニ干戈ヲ接スルニ及ビ支流士ハ王ヲ探テ四
方ニ奔走シ護兵ハ亂軍中ニ潰散シテ僅ニ數名
王ノ傍ニ在リ支流士王ヲ認メ直ニ馬ニ策チ進
ミ呼テ曰ク余王ヲ認得タリト是ニ於テ兄弟相
戰ヒ阿爾多澤耳士疵瘡ヲ被リテ馬ヨリ落ツ從

者之ヲ扶ケテ再馬ニ乗ラシメタリ此時支流士
投槍ニ中リ重疵ヲ被リテ墜落シ忽チ四面ヨリ
蔽ハレテ遂ニ殺害セラレタリ
此戰事ヲ歴觀スルニ倫理ニ戻リテ實ニ吾人ノ
心肝ヲ冷スニ堪ヘタリ阿爾多澤耳士ハ弟ヲ殺
スヲ以テ名譽ヲ得而シテ其兵士波斯ノ國風ニ
倣ヒ支流士ノ首ト右手トヲ切テ王ノ處ニ齎ラ
シ來レリ乃チ其頭髮ヲ握リ戰勝ノ徵トシテ之
ヲ掲ゲタリト云フ
下章ニ陳述スル如クヤノッホシハ希ソ歴史家ニ

シテ此遠征ニ最樞要ノ人ナリシガ支流士ノ美
 質ヲ稱揚シテ曰ク支流士ハ能ク民ノ心ヲ収メ
 タリト然レドモ吾人支流士ノ臣トナリテハ謀
 叛シ弟トナリテハ人倫ニ戾レルコトヲ忘レガ
 ルナリ

クナキサ戦争ノ後希兵ハ敵國ノ中ニ在テ進テ
 得ル所ナク退テハ危殆ニ陥ラントシテ窮困度
 ナキニ際シ先支流士ノ友侶亞流士ヲ撰テ支流
 士ニ代ヘシニ亞流士ハ之ヲ避ケテ敢テ諾セズ
 阿爾多澤耳士使ヲ希兵ニ遣シ言ハシメテ曰ク

汝等直ニ兵器ヲ投ジテ服従スベシ後用ヒテ從
 臣トセント希兵之ニ從ヒ肯ゼズ答テ曰ク我等
 若王ニ屬從セバ兵器ヲ用ヒテ王ニ事フベシ又
 王ニ敵センニハ身ヲ防捍スベキ干戈ナキヲ得
 ズ故ニ今之ヲ殺ズルニ忍ビスト
 是ニ至リ希兵意ヲ決シテ退陣セント欲シクリ
 ールチニスヲ以テ大將トセリ然レモ今ハ前程
 甚遠ク其進ミシ道ヨリスレバ海岸ヲ距ルコト
 二千里ナレドモ敵兵ヲ避ンガ為逆路ヲ取ラザ
 ルヲ得ズ故ニ更ニ遼遠ナリ

此舉ハ極メテ危難ナレドモ波斯王希兵ハ如何ナル危難ニ際ストモ敢テ屈セザル者ト思ヒ暫時休戦ヲナサントテ使ヲ遣シ且卿導ヲ與ヘテ糧餉ヲ得ベキ地ニ就カシメント言ヒケレバ發途ノ初思量セシヨリ恃ム所アルガ如シ

波斯ノ大酋チツサペル子スモ亦俊秀ノ士數名ト共ニ希ノ陣營ニ來リ懇切ノ意ヲ表シテ曰ク吾王ノ許可ヲ得テ汝ヲ無異ニ歸國セシム故ニ臣ノ領地ニ損害ヲ加ヘズ且ツ悉ク其取領シタルモノヲ償フベシト

此言真ニ疑フベカラサルカ如シト雖モ希兵ハ尚之ヲ疑ヘリ

斯クテチツサペル子スハ兵ヲ將テ途中希兵ヲ護衛シ波人亞流士モ亦共ニ旅行セリ亞流士ハ嘗テ支流士ヲ助ケシガ今ハ其罪科ヲ宥サレテ身既ニ安全ナリト思フニ及ビ希人ヲ待スル事前日ノ如ク懇切ナラズ

既ニシテ皆相共ニ旅行セシニ數般ノ事故ヨリシテ益波人ヲ疑フニ至レリクリールチニス思ヘラク公然チツサペル子スニ希兵ノ疑懼スル所

ヲ談ルニ若カズトチッサヘル子ス之ヲ聽キ絶テ
憤怒ノ色ナククリールチューズニ言テ曰ク請フ
君熟考シテ此疑念ノ妄謬タルヲ悟ルベシ波王
若シ果シテ希兵ヲ殺害セント欲セバ神ニ對シ
テハ不敬人ニ對シテハ耻ヅ可キ奸謀ヲ用ヒズ
トモ豈之ヲ害スル方略ナカラシヤ然レ氏今希
兵ハ余ノ為ニ安寧ヲ得タレバ亦何ッ畏ルベキ
理アラシヤト
クリールチューズハ此言ヲ確信シ加ルニ浮説ヲ
唱ヘ危疑ノ念ヲ抱カシメタル者ヲ發擿シテ刑

戮ニ處セント欲シ明日上將ヲチッサベル子スノ
面前ニ伴ヒ來リ果シテ罪ノ證據アルモノハ之
ヲ叛逆ニ准擬シテ罰スベシト決議セリ
斯ク事ノ備具スルニ及ビチッサベル子スハクリ
ールチューズヲ留メテ盛宴ヲ開キ懇情ヲ結ビ飽
マデ愉快ヲ盡シテ明朝其陣營ニ送レリ
希兵ノ此事ヲ聽クニ及ビ異議スル者ナキニ非
ズ希卒ト雖モ尚重官ヲチッサベル子スニ通與セ
バ危難ノ際會スベキヲ知り之ヲ止メンコトヲ願
ヘリ然レモクリールチューズハ断然之ヲ聽サズ

裨將某ヲ以テ巳ノ仇敵ナリト思ヒ之ヲチツサセ
ル子スノ營ニ伴テ叛逆人トナサント欲ス是ニ
於テ上將四名裨將二十名ハクリールチニスニ
從行セシトテ諾シ其他ハ敢テ之ヲ肯ゼズ既ニ
チツサヘル子スノ牙營ニ至リ將帥及ヒクリール
チニスハ之ニ入り裨將ハ事ノ結局ヲ認メント
欲シテ扈從セル士卒ト共ニ轅門ノ外ニ遺留セ
レガ幾ハクモナク諸將ハ捕縛セラレ裨將及ヒ
兵士モ亦慘殺ニ逢ヘリ
此奸謀ノ報聞忽チ希ノ陣營ニ達スレバ希兵ハ

敵ノ速ニ進撃セントテ察シ倉皇狼狽シテ干ヲ
握リ戈ノ擔ヘテ敵兵ハ襲來セズ彼ノ諸將ヲ俾
トシテ阿爾多澤耳士ノ所ニ送リテ皆殺戮シ而
シテ此兵士ニ降伏ヲ促セリ然レテ希兵ハ敢テ
之ニ從ハス糧餉盡キテ嚮導ナク又中道ニ戦フ
トモ一名ノ騎兵ナク且故國ヲ隔ツルテ數百里
ニシテ今ハ危急ノ秋ニ際スト雖モ尚偏ニ退陣
セントテ欲セリ然レテ衆皆憂苦ニ堪ヘズシテ
殆ト此夜眠ニ就キ食ヲ喫ミ溝ヲ燃ク勢カアル
モノナク人々皆地ニ伏シ親子朋友ニ再會スル

一人カノ得テ及フ所ニアフズト痛傷悲嘆シテ
長夜ヲ過シタリ
一萬ノ希兵斯ル極危至難ニ陥ルト雖モ終ニ冥
助ノ來ルニ逢ヘリ是則亞地拿人ニシテ索克拉
的ノ門弟ナリ其名ヲセノッポント云フ此人容遊
シテ此軍中ニ在リ亦憂苦シテ斃死セル徒ト共
ニ此夜ヲ過シ、ガ須臾眠ニ就キ恍乎トシテ夢
ヲ結ブ既ニ覺メテ其思慮ヲ變ジ自問スラク夜
ハ益深更ニ至レリ若シ黎明ニ至ラバ必ス來リ
テ我軍ヲ襲フベシ余安ンリ悠然トシテ茲ニ偃

蹇スベケンヤ且ツ誰モ防禦ノ備ヲナスモノナ
シ若シ更ニ精練セル將校ヲ待テ進マシニハ時
機ニ後レシム必セリト乃チ蹶然トシテ起立シ
數名ノ士官ヲ呼デ防戰ノ備ヲナシ且ツ將帥ヲ
選擇シテ前將ノ缺ニ補センヲ愆患ス曰ク此
計策ハ以テ大ニ兵士ノ勢氣ヲ維持スベシト乃
皆欣然トシテ此說ニ聽從シ又其他ノ士官ヲモ
呼集シセノッポント合シテ五名ノ將帥ヲ推選シ
然ル後軍事ヲ咨謀スルニ至レリ
セノッポント人ト為リ智勇人ニ勝レルノミナラ

亦達辨ノ人ナリ其會合ニ臨ミ談說スルニ當
 リ救擧テ聽從セザルヲナシ今殺人危難ノ至ル
 瞭然タリト思ヘ凡獨リセノッホニノミ尚恃ム所
 アルヲ察シ其意ヲ諭シテ曰ク敵ノ我諸將ヲ剥
 グハ必ズ我軍ヲ亂サンガ為ナリ故ニ各能ク軍
 律ヲ固守シ且將命ヲ奉ゼズンバアル可カラズ
 此如クナレバ彼策ヲ失シテ事終ニ遂ルテ能ハ
 ズ又車及ビ帷幄其他無用ノ輜重ハ行軍且戰爭
 ノ障礙トナルヲ以テ悉ク之ヲ毀焼スベシト
 是ニ於テ救皆セノッホニノ言ニ從ヒテ退去シ滅

節シ得ベキモノハ悉ク毀焼シテ速ニ全軍退陣
 ニ及ベリ

セノッホニガ堅忍温順ナルトハ其後自ラ記載セ
 ル此有名ノ退陣書ニ就テ瞭然明白ナリ希兵ハ
 後ヨリチツサベル子スニ追蹙セラレ又屢行路ノ
 土民ニ襲撃セラレテ敵國ヲ經行シ幾多ノ困難
 ヲ經テ始メテ亞爾美尼亞ニ達シタリチツサベル
 子スハ追蹙ヲ止メシガ寒氣凜冽トシテ恰モ前
 日敵兵ノ困苦ニ異ナラス積雪六尺ノ深キニ及
 ビ朔風面ヲ裂クガ如ク之ガ為ニ死スル者頗ル

多シ是ヨリ亞爾美尼亞ノ北ニ向ヒ蠻夷中ヲ衝
 テ進行シ遂ニサクレットモランテイ靈山ト云ン
 ノ絶頂ニ達ス其先鋒ノ爰ニ登リシヤホノッホ
 ハ軍ノ殿後ニ在リテ其止リタルヲ見先鋒ノ敵
 兵ニ逢ヒシト思ヒ其逗撓スル所以ヲ知ランガ
 為メ馳セ行キタリシニ何ソ圖ラン蒼海蒼海ト
 呼ブ歡喜ノ聲セノッホノ耳ヲ貫キタリ
 忽^マ眼^マ下ニエエンヤン海アリテ既ニ郷里ニ近ヅキ
 タレバ官ヨリ兵卒ニ至ルマテ各喜悅ニ堪ヘ
 ズ感涙ヲ流シテ迭ニ相抱キタリ是ニ於テ同心

協カシ山ノ絶巔ニ石塔ヲ建テ冥助ヲ賽謝シ且
 之ヲ後世ニ傳ヘニ為メ俘囚ノ武器ヲ塔上ニ置
 キタリ

總軍合セテ一萬ノ兵士中道ニ死スル者一千四
 百、殘兵八千六百人ナリ此輩艱難ニ處シテハ親
 睦ナリシガ既ニ艱苦ヲ脱スルニ及ヒ互ニ相爭
 フニ至ルセノッホ心志ヲ盡シテ之ヲ諭シ漸次
 解散シテ或ハツールス侯ノ臣下ト為レリセノッ
 ホンハ亞地拿ニ歸リ恭敬寵遇セラレズシテ反
 テ放流セラレタリ蓋シ亞人セノッホノ支流士

新羅史略 卷二 百一 四

ノ軍事ニ加ハリタルヲ念慮セシカ或ハ斯巴爾
達ノ為メニ利ヲ致シタルヲ妬嫉セシナルベル
斯人ハセノッホンは與フルニ廣大ノ地及ヒ阿林
皮ノ曠野ニ近キ開谷ノ家屋ヲ以テセリ其後セ
ノッホンハエベシユースノジアナノ殿堂ニ模倣シ
テ爰ニ一ノ小堂ヲ建立シ而メアクトツオアゼア
ホストル前篇ニ見
エタリニ載スル所ノ巨大ノ金像ト
同狀ナル樺樹ノ肖像ヲ其中ニ奉置セリ此堂ノ
周圍ニ菓樹繁殖シ又會獸ノ群集セル林藪及ビ
細流ノ縈帶セル田隴アリセノッホンハ斯ク閑雅

ナル處ニ住シテ或ハ朋友ト交リ或ハ書籍遊獵
ヲ以テ慰樂トナシ又心ヲ教法ニ用ヒテ多年ヲ
送レリ其末路ノ事蹟ニ就キテハ其說數般アリ
ト雖モ老年ニ及ビ郷里ニ復歸セシトハ確トシ
テ信憑スルニ足レリ

平田宗敬 校

希臘史略卷之七終

定價金拾五錢

官版御書籍發兌

總發行所

山中市兵衛

實米橋通三丁目

稻田佐兵衛

山町一丁目

出雲寺萬次郎

希臘史略

東京圖書館					
九	三	二	二		
冊	號	架	函	屬	類

五十八

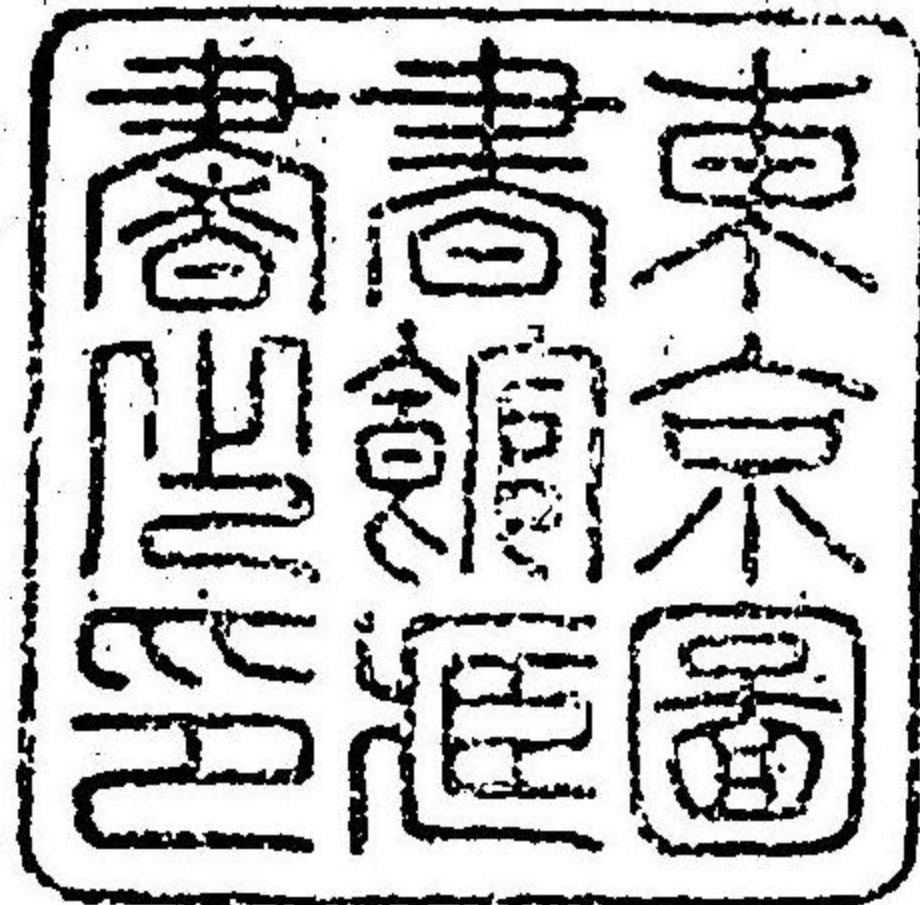
明治十三年十二月

希臘史略

文



省



希臘史略卷之八目錄

第三十二篇

アンタルンダスノ和親ノ記

第三十三篇

流克多拉戦争ノ記

第三十四篇

曼地尼戦争ノ記

第三十五篇

神聖發起ノ記

第三十六篇

ケーロニア戦争ノ記

第三十七篇

亞勒山得波斯攻撃ノ記

第三十八篇

イサス戦争ノ記

希臘史略卷之八

那珂通世譯

第三十三篇

一萬ノ希臘人難ヲ犯レテ其ノ國ニ歸ル時ニ當
 リチスサヘル子ス其ノ功ヲ賞セラレテ嘗テ支
 流士ニ隸屬セル諸州ノ牧ト爲レリチスサヘル
 子ス亞細亞ノ希臘都邑ヲ以テ其ノ管下ニ屬シ
 之ヲ統轄セントスレバ都邑之ニ從ハス其獨立
 ヲ唱ヘ援ヲ士巴爾達ニ求メタリ是ニ由リテ士
 巴爾達波斯兵ヲ構ヘ專ラ亞細亞買諾ニ於テ戰

ヘリ士巴爾達兩王ノ一ナルアゼシラウ軍事ヲ
統ベ理撒得之ニ隨ヒ參謀タリサレド兩人ノ親
交長カラス理撒得前時亞細亞ノ希臘諸州ニ於
テ大ニ威望アリレカ故ニ其ノ至ルニ及ヒテ甚
敬重セラレタレハアゼシラウ之ヲ妬ミ理撒得
ニ由リテ奏スル所ノ諸願訴ハ皆之ヲ拒ミテ以
テ厭惡ノ情ヲ露セリ理撒得王ノ不情ヲ恚リ自
請フテ他處ニ遷リテ以テ其ノ屈辱ヲ免レント
ヲ欲ス士巴爾達王其ノ請ヲ許シ之ヲ黑勒斯奔
ニ送リテ獨自督戰セリ

士巴爾達王ノ意嚮スル所ハ希臘諸邑ヲレテ波
斯ノ羈軛ヲ脱セシムルニ在リト謂フト雖蓋亦
波斯帝國ノ全カヲ擊破スルノ志アリ且薩爾的
ノ近傍ニ於テ大勝ヲ得タル時王ノ意ニ謂フ士
巴爾達政府只我ニ大援ヲ與ヘバ我波斯ヲ滅ス
ルコトヲ得ヘント○士巴爾達人ノ此ノ勝利ハ
チスサヘル子スガ身ヲ滅スノ基ト爲レリ阿爾
多澤耳士及ヒ支流士ノ母パリサチスチスサハ
ル子スカ常ニ其愛子支流士ニ抗敵セシニ由リ
テ之ヲ惡ミシガ是時王ニ説クニチスサヘル子

スガ不臣ニシテ罪死ニ當ルコトヲ以テセリチ
スサヘル子スノ奸譎ナルヲ疑ナシ屢同謀ノ人
ヲ欺キ陽ニ之ヲ好愛シテ其實ハ只一己ノ利害
ヲ計較スルノミサレド是時更ニ不忠ノ行アル
ヲ無シ然ルニ波斯ノ闇主殘酷ナル母后ノ言ヲ
用井テチスサヘル子スヲ殺セリ

波斯諸州ノ牧長權勢殆ト君王ノ如シチスサハ
ル子スニ繼キテ州牧ト爲レル者恰モ波斯王ニ
隸屬セザルカ如ク自アゼシラウト和ヲ講セン
トヲ求メタリ然レ氏講和ハアゼシラウトノ欲ス

ル所ニ非ス州牧身ノ大難ニ丁ルヲ見テ務メテ
士巴爾達人ノ心ヲ離間シ該州ヲ去ラシメント
ヲ願ヒ密ニ使ヲ希臘ニ遣リ各國ヲ煽動シ或ハ
説キ或ハ賂ヒテ士巴爾達ト兵ヲ構ヘシメント
セリ

是事難カラス何トナレハ是時希臘列國士巴爾
達ヲ厭フコト久シ士巴爾達人嘗テ亞地拿強盛
ノ時ニ於テ其ノ暴厲ナルヲ非議シタリシガ
今自己ノ所爲モ亦之ニ異ナルヲ無シ以利斯ノ
國ハ阿林皮ノ祠堂ノ在ル所ニシテ昔ヨリ殊ニ

安康ノ地ナリシガ士巴爾達人之ト繫ヲ開キ遂ニ屬國ト爲セリ故ニ以利斯人ハ更ニ士巴爾達人ヲ厭ヘリ又亞爾革斯ハ常ニ士巴爾達ノ敵ニシテ哥林西亞爾加的亞亞加歷皆怨懟スルヲ多シ亞地拿人ハ固自同盟ノ長トナリ舊敵手ノ勢カヲ挫折スルヲ欲セリ

士巴爾達人ハ外ニ親信ノ與國ナク内モ亦安寧ナラス下民ノ上ヲ怨ムルヲ甚深シ是ヨリ先ニ畏難スヘキ謀反アリテ發覺セリ是ハ當時留守ノ王及議官以訶利ヲ初トシテ凡ソ士巴爾達人

ト稱スル者ヲ鑿殺セントシタルナリ蓋前篇ニ記セシガ如ク拉哥尼亞ノ人民ハ都鄙ヲ論セス士巴爾達人ト呼バルレ其精密ニ之ヲ言フトキハ只都人ノミ此ノ名稱ヲ受ケテ國權ヲ把ルヲ得タリ是昔時拉哥尼亞ヲ征服セシ鐸利亞族ノ後裔ナルガ故ナリ是ノ謀反發覺レ渠魁捕獲セラレテ誅ニ伏セリステ災禍消除シタレ其亦斯ノ如キ變亂アルヲ以テ政府紳士ノ民心ヲ得サルヲ見ルヘシ

波斯州牧ノ禍亂ヲ煽動セシヨリ諸小國ノ紛争

始テ起リ一州既ニ鼎沸スルニ至レリ理撒得士
巴爾達ノ軍ヲ統率セシガ戰未幾バクモアラズ
シテ殺サレタリ士巴爾達人其良將ナキニ苦シ
ミアセシラウヲ亞細亞ヨリ召ヒ還セリ
アセシラウノ霸圖是ニ於テ竟ニ壞レリアゼレ
ラウノ事業既ニ皆其ノ意ノ如ク又波斯人之ニ
應スル者アリ帝國ヲ征服スルノ大志將ニ達セ
ントスル勢アリ然レモ以訶利ノ命ハ背ク可ラ
サレバ僅ニ四千許人ヲ留メテ希臘諸邑ヲ守ラ
シメカメテ速ニ還ランコトヲ期レ復反顧セズレ

テ士巴爾達ニ赴ケリ
是時ニ當リテ士巴爾達人大ニ振ヒアゼシラウ
ノ希臘ニ達スルニ先タチテ哥林西ノ邊ニ戰ヒ
大ニ勝チ其ノ勢唯士巴爾達ノ名ノミニシテ衆
敵ヲ壓スルニ足レルガ如シ又アゼシラウガッ
レス馬基頓ヲ過クルキ抗敵スル夷狄ノ諸部
ヲ破リ進ミ戰フテ勝タサルコトナシ然ルニ白
阿西亞ノ境ニ至リテ一ノ凶報ヲ得タリ唯一身
ノ悲哀ヲ生スルノミナラス亦一國ノ大難ナリ
是士巴爾達海軍ノ敗績トアゼシラウノ妻ノ兄

弟ナル海軍將ノ戰死ナリ此ノ如キ挫敗ハ何ノ
時ニアリテモ深ク惋痛ス可シ此敗ヲ聞テアゼ
レラウハ尤之カ爲ニ自己ノ罪ヲ知レリアゼレ
ラウ亞細亞ニ在リシキカヲ盡シテ艦隊ヲ聚メ
シハ措置ノ宜シキヲ得タリシガ其ノ後海軍將
ヲ命スルニ當リテ其ノ任ニ勝フル人アルヲ
知レモ之ヲ舉ケズ其ノ妻ノ兄弟ニシテ我ニ親
シキヲ以テピサンドルニ任シタリキ
ピサントルハ未事ヲ更ザル人ナリ然ルニ波斯
人ヲ率井ル者ハ亞地拿ノ良將コノンナリコノ

ンハエゴスポタミノ戰ニ亞地拿ノ艦隊挫敗セ
レ後シプリユスニ遁レタリシカ終ニ波斯王ニ
事ハ其カヲ假リテ亞地拿ヲ士巴爾達ノ羈軛ヨ
リ脱センヲ望ミタリ
アゼレラウ亞細亞ヲ去リテヨリ後コノンピサ
ンドル叙里亞ノ洋中ニ於テ合戰セリピサンド
ル亞地拿ノ良將ニ敵スルヲ能ハスレテ同盟ノ
軍海ヨリレテ逃ル、者アリ海濱ニ追ハル、者
アリピサンドル敢テ船ヲ去ラス劍ヲ手ニシテ
憤死セリ然レモ一夫ノ勇ハ大潰ノ勢ヲ復スル

一能ハス不幸ノ新報ハ大ニ國人ノ志氣ヲ挫キ
シナラン

士巴爾達人陸戦スルヲ數年多クハ哥林西ノ近
傍ニ於テシテ屢利アレモ曾テ海戦ノ敗失ヲ償
フ一能ハスコノンノ大志ハ本國ノ強大ヲ恢復
スルニ在レハ波斯人ニ説クニ理撒得ノ破壊セ
レ亞地拿ノ長壁ヲ興復セハ士巴爾達ヲ懾伏ス
ルヲ戰勝ニ愈ルヲ以テ此ノ本志ヲ持シテ
爲ニ十分ナル貨幣ヲ波斯人ヨリ得テ亞地拿ニ
航シテ長壁ヲ再築シコノンニ屬セシ水夫ニ至

ルマテ其ノ役ヲ助ケタリ士巴爾達人今コノン
ヲ見テ一大敵ト爲シ之ヲ避ケンヲ欲シ、ガ
其ノ志久シカラズシテ達セリ波斯人講和ノ念
ヲ生セシニコノン其條約ヲ可トセス抗然ト之
ヲ論シケレハ波斯人以テ王ノ意ニ忤フト爲シ
之ヲ獄中ニ拘囚セリコノン其ノ後脱スルコト
ヲ得ルト雖復軍事ニ參預セスシプリユスニ於
テ死セリ亞地拿人コノンノ功德ヲ稱シ黃銅ノ
像ヲ樹テ、謝恩ノ意ヲ表セリコノンノ抗論セ
シ所ノ和議終ニ紀元前三百八十七年ニ於テ決

セリ斯巴爾達人アンタルシダス主トシテ之ヲ
成セシヲ以テ世之ヲアンタルシダスノ和親ト
云フ

兩黨皆戰爭ニ疲レ且是ニ由リテ一ノ利益モ生
セザルヲ見テ其ノ講和ヲ願ハザル者無シ然レ
氏其ノ和約ハ希臘人ノ期望セシガ如クナラス
蓋兵ヲ起セシ本志ハ亞細亞ノ希臘都邑ヲシテ
波斯王ノ管轄ヲ脱セシハルニ在リ然ルニ希臘
ノ委員相會シテ波斯王ノ意見ヲ尋子シ時左ノ
命令ヲ讀ミ聞カセラレタリ

阿爾多澤耳士王ハ亞細亞ノ希臘諸邑及クラ
ヅメニシプリユスノ二島ハ我ニ屬シレンノ
スインプリユスサイリユスノ三邑ノ外希臘
大小ノ都邑ハ皆獨立ヲ保チ其ノ三邑ハ從前
ノ如ク亞地拿人ニ屬スルヲ至當ナリト思
フ若此ノ和約ニ從フヲ欲セザル國アラバ
我將ニ之ヲ征セントス
波斯王斯ノ如ク傲慢ニシテ恰モ希臘ノ事務ヲ
措置スル權アル者ノ如クシテ小亞細亞ノ希臘
諸邑ヲ統轄スルヲ戰爭ノ前ニ異ナラス

第三十三篇

拉塞特蒙尼亞人ハ其ノ國ヲ希臘ノ最重要ナル者ト謂ヒ各國ヲシテアムタルシダス、和親ノ條約ニ遵ハシムルヲ以テ自任シ且常ノ如ク暴慢ニシテ私利ヲ營メリ亞爾加的亞ノ曼地尼府ハ前役ニ於テ士巴爾達ニ親睦ナラザリシカバ和議已ニ整ヘリト雖士巴爾達人猶其城壁ヲ毀ツトヲ命セリ曼地尼入命ヲ拒ミケレハ士巴爾達人兵ヲ遣シテ之ヲ攻メ堤ヲ築キテ河流ヲ遏メ其ノ水ヲ障壁ニ激シテ崩壞セシム曼地尼

人百方之ヲ禦ガント欲スレモ能ハスレテ終ニ降レリ士巴爾達人其ノ街市ヲ毀チテ其ノ住民ヲ四箇ノ村落ニ遷セリ斯テ士巴爾達人ハ希臘ニ覇ヲラントスルノ意ヲ顯ハシ列國爭論起ル毎ニ必之ヲ裁決シ以テ權執ヲ得ント欲シ凡其ノ命スル所ハ必其ノ直ニ遵ハレントヲ期望セリ吾人ノ聞ク所ノ士巴爾達ノ一善事ハプラチヤ人が再其ノ國ニ歸リテ其ノ邑ヲ築クヲ許セシトノミナリ士巴爾達ハ今其ノ勢強大ヲ極ムト雖其ノ衰滅

亦近キニ在リ亞地拿人、如ク士巴爾達人モ權ヲ弄シ威ヲ逞クシケレハ其ノ無道ノ報速ニ至ラントス

其禍難ノ第一ノ原因ハ德巴斯ヲ奪略スル是ナリ五年ノ間士巴爾達人馬基頓ノ希臘都府ヲルオリンシユスト兵ヲ構ヘタリ是役ハ自己ノ爲ニ興レルニ非スオリンシユスノ敵人救援ヲ求めシ者アルニ由リテ之ヲ援ケタルナリ是ノ征戰ノ間オリンシユスニ赴カントスル士巴爾達兵偶德巴斯城ノ近傍ヲ過キタリ是時德巴斯ノ

市人ニ黨ニ分レテ相争ヒシガ其ノ一黨ノ魁首士巴爾達人ノ己ヲ愛センコトヲ希ヒ款ヲ將軍ニ通シ德巴斯ヲ以テ之ニ委子シコトヲ陳セリ是國士巴爾達人カ常ニ德巴斯ニ主タランコトヲ欲スルニ非ス特ニ其親友ト稱スル黨魁ヲ助ケンコトヲ望ミタルナリ然ルニ士巴爾達人ハ一タビ德巴斯ニ入ルコトヲ得テ復之ヲ去ラス其ノ事ノ是非ニ關セスシテ自其ノ内城ヲ取り地方ノ守宰ト爲レリ

是時德巴斯ニ才大ニ德高クシテ名族ニ生レ又

相愛スルヲ以テ聞エタル二人ノ豪傑アリペロ
 ピダスハ富有ニシテ事業ヲ喜ヒ功名ヲ慕フ人
 ナリエパミノンダスハ甚貧ニシテ深沈遠慮ノ
 人ナレ氏其ノ務ム可キ事アルニ當リテハ常ニ
 勞ヲ厭ハス二人相與ニ交ルコト己ニ久シ嘗テ同
 シク軍ニ從ヒ此ノ多難ノ時ニ際シ親愛尤深シ
 ト云フエパミノンダスハ決シテ錢貨ヲ其ノ友
 ヨリ受クルコトヲ肯ンセズペロピダスモ亦其ノ
 行狀ニ倣ヒ同シク儉素寡慾ヲ務メタリエパミ
 ノンダスノペロピダスヲ愛スルコトハ德巴斯人

ガ士巴爾達人ヲ助ケテ曼知尼ヲ圍ミシ時ニ於
 テ殊ニ現レタリペロピダス傷ツキテ斃ルニ
 方リテエパミノンダス之ヲ死セリト思ヒケレ
 氏之ヲ捨テ去ルニ忍ヒズ身ヲ以テペロピダ
 スヲ蔽ヒ之ヲ捍禦シカノ殆ト盡クルニ至レリ
 幸ニシテ士巴爾達人ノ來リテ兩人ヲ助ケシニ
 非ズンバ恐ラクハ殺サレタリシナラン
 士巴爾達人ノ德巴斯ノ内城ヲ奪ヒシ時ペロピ
 ダス衆ト共ニ亞地拿ニ脱走セリエパミノンダ
 スハ士巴爾達人ノ横暴ヲ制止セント欲シ獨德

巴斯ニ留マリ尚亞地拿ニ至レル諸友人ト常ニ
相通信セリ諸友正ニ怨ヲ士巴爾達人ニ報ヒシ
ト欲シ忿々ノ心ニ勝ヘズ士巴爾達ノ諸將帥等
德巴斯ニ於テ暴惡ヲ行フト聞クニ及ヒテ彌益
憤激シテ其ノ鄉國ヲ恢復セリト謀レリ然ル
ニエパミノンダスハ此舉ノ成功ヲ願フト雖其
ノ争亂ヲ大ニシテ禍ヲ無辜ク民ニ及ボサシ
ト懼レ敢テ其ノ謀ニ與ラスペロピダスハ此等
ノ事ヲ顧ルニ暇アラス亞地拿人ト謀ヲ合セ事
急ナラハ救援ヲ假ラント約シ勇士數人ヲ擇

ビテ之ヲ伴ヒ服ヲ變シテ獵夫ト爲リテ德巴斯
ニ赴ケリ德巴斯ノ城中預メ謀ヲ通スル者アリ
ペロピダス等ノ至ルニ及ビ一人アリ之ヲ延テ
其ノ家ニ匿セリ又一人アリ謀リテ士巴爾達ノ
二將ヲ招キテ會宴ス會宴ノタペロピダスノ同
士竊ニ其ノ主人ノ家ヲ出テ友人ノ幫助ニ由リ
テ會宴ノ室ニ入ルト得直ニ進ミテ二將ヲ殺
セリ同時ニペロピダスハ又二士ト共ニ一將ノ
家ニ到リ纒ニ之ニ入ルト得テ之ヲ殺シ又他
ノ一將ニ到リ亦斯ノ如クシテ之ヲ殺セリ然ル

後ニ前ニ士巴爾達人ニ拘囚セラレタル諸友人
ヲ獄ヨリ出ダシ街市ヲ過キテ暴吏ノ誅滅ニ及
フコトヲ倡ヘ真ノ德巴斯人ヲ將井テ義舉ニ與
スルヲ勸メタリ

都人未事端ノ起レルヲ知ラズシテ曉ニ至ルマ
テ動搖セザリシガ天明ルニ及ビ始テ之ヲ覺リ
皆相集リテ歡舞極リ無ク凱陣ノ呼聲ヲ以テ脱
走ノ徒ヲ招迎シペロピダス及其ノ同謀二人ヲ
擇ヒテ宰官トナシボータルクノ稱ヲ與ヘタリ
ボータルクハ白亞西亞各邑ノ守宰ノ古名ナリ

亞地拿ノ援軍正ニ德巴斯ニ進入ス士巴爾達人
城壁ヲ棄テ去レリ是ニ於テ士巴爾達政府ハ
德巴斯ト會戦スルヲ宣告シアゼレラウラレ
テ軍事ヲ都督セシムアゼシラウ老僊ト稱シテ
之ヲ辭セシカド蓋其ノ實ハ是ノ不義ノ師ニ關
涉スルヲ欲セザルナリ然レモ竟ニ是ノ志ヲ
守ルコトヲ得ザルニ至レリ
亞地拿人ハ初意蓋德巴斯ヲ助クルヲ欲セズ
其ノ援軍ヲ送リレハ特ニ二將ノ爲セル所ニシ
テ人民ノ協議ニ出デサリレカバ其ノ後二將之

が爲ニ嚴罰ヲ受ケタリ亞地拿人ハ蓋士巴爾達
人ノ怒ヲ招クコトヲ好マザリシカモ一時中立ヲ
保チシ後ニ德巴斯人詐ハリテ警報ヲ傳ヘ士巴
爾達人ガ亞地拿ヲ襲ハントスト曰フニ因リテ
亞地拿人終ニ德巴斯ノ黨援ヲナセリ若此ノ事
ヲシテ實ナラシメバ固ヨリ德巴斯ニ合スルヨ
リ外ニ良策無カラシテ戰端一タビ開ケテ亞地拿
ノ兵威頗振ヒ諸大島及濱海ノ諸邑之カ同盟ト
ナリ亞地拿再希臘列國ニ霸タラントセリ然レ
モ諸小國皆亞地拿ノ嘗テ横虐ヲ以テ己ヲ遇セ

シコトヲ記シ之ニ隸屬スルコトヲ欲セシテ各其
ノ獨立ヲ保テリ德巴斯人モ亦能ク士巴爾達ヲ
抗拒セリペロピダスハ將才アリ又エパミノン
ダストカラ合セテ軍旅ヲ精練セリ就中神聖隊
ト號スル少壯ノ兵アリ其ノ衆三百人皆其ノ朋
友ニシテ武勇ト愛國ノ心トヲ以テ著ル多年ノ
戰爭ノ間首トシテ德巴斯ヲ保持セシ者ハ此ノ
神聖隊ニシテ終ニ其國ノ威名ヲ希臘全土ニ輝
カセリ

德巴斯ノ戰ハ十六年ノ間ニシテ初ハ唯士巴爾

達ノ抑制ヲ免レンガ爲ニ起リシカ戦争ノ未止
 マザルニ德巴斯ノ勢力大ニ加ハリ亞地拿士巴
 爾達兩國ニ抗スルニ足レリ是固ヨリエパハノ
 ンダス及ペロピダスノ功ナリ亞地拿人ハ時々
 德巴斯ヲ助ケタリシガ又自國ノ爲ニ平和ノ急
 要ナルヲ慮リ士巴爾達ト和約ヲ結ビ德巴斯
 人ヲシテ獨自戰ハシメタリ亞地拿人ハ實ニ德
 巴斯人ノ舉動ニ不滿ナル所以アリ德巴斯人ハ
 苟己ニ不利ナル者アレハ亞地拿ノ與國ナルモ
 之ヲ攻撃シテ顧ミズ其ノプララヤヲ遇スル殊

ニ暴ナリプララヤノ民德巴斯ニ隸屬スルヲ
 好マズレテ亞地拿ノ保護ヲ受ケレカバ德巴斯
 人其ノ民ヲ都城ヨリ驅逐レ其ノ城壁ヲ崩レテ
 平地トナセリ是固ニ利害ヲ共ニスル同盟國ノ
 當ニ行フ可キ所ニ非ス蓋是時德巴斯人ハ貪心
 ヲ生シ亞地拿人ハ妬心ヲ生セレガ故ニ和親ヲ
 長クセント欲スレトモ得可カラザリキ
 德巴斯ノ諸大戰ノ一ハ希臘列國既ニ互ニ和ヲ
 講シ德巴斯人獨自戰ヲ爲セル時ニ在リ是時德
 巴斯人モレ白阿西亞ノ諸大邑ノ獨立不羈ヲ許

サバ必シモ甲兵ヲ興スニ及バサリシカニ德巴
斯人モ亞地拿士巴爾達ノ如ク列國ニ雄多ラン
ヲ望ミ且昔ヨリ白阿西亞ノ首長ト仰ガレタ
リケレバ德巴斯人モ一理ナレト謂フ可カラズ
是戰ハ耶蘇以前三百七十一年白阿西亞ノ流克
多拉ニ於テレテ希臘戰爭ノ著名ナル者ナリ士
巴爾達ノ兵德巴斯ヨリ衆カリケレバ德巴斯人
全ク勝テリ此ノ成功ハ多クハエパミノンダス
ノ熟練トペロピダス及神聖隊ノ驍勇トニ由レ
リ兩軍勝敗久シク決セザリシガ一激戰ノ後エ

パミノンダス「唯一步進メト呼ビ以テ衆ヲ勵マ
シテ勝利ヲ得タリ士巴爾達ノ大將殺サレ士卒
死スル者幾ト一二千此等ハ多ク士巴爾達ノ都
人ニシテ徒ニ拉塞特蒙尼亞人ナルニ非サレバ
國民ノ貴顯ナル者ナリ

士巴爾達ノ軍士ハ其ノ敗軍ヲ稱スルヲ欲セ
ス德巴斯人がトロヒーヲ起スヲ妨ケントセ
リトロヒーハ敵ヨリ掠取スル所ノ兵器ヲ積ミ
重子テ戰勝ヲ標スル者ナリ但士巴爾達ノ將帥
ハ此事ヲ以テ無益ナリトシ敗軍ヲ記識スル希

臘ノ風習ニ循ヒ使者ヲエパミノンダスニ遣ハ
シ味方ノ死屍ヲ葬ラシムヲ請ヒシカバエパミ
ノンダス之ヲ許セリサレド士巴爾達ヲシテ其
ノ死亡ノ數ヲ蔽ハザラシメンガ爲ニ士巴爾達
ノ同盟ノ諸軍ヲシテ先其ノ屍ヲ運ヒ去ラシム
是ニ於テ同盟ノ軍皆戰死ノ最多キ者ハ士巴爾
達人ナルコトヲ知レリ

第三十四篇

流克多拉ノ敗軍ヲ報スル使者士巴爾達ニ至リ
シ片人民ハ大祭日ヲ祝シテ劇場ニ群集シ演劇

方ニ闕ナリ以訶利官敢テ禪儀ヲ停止セズ亦一
モ當日ノ歡樂ヲ奪ハズ戰死者ノ名藉ヲ其ノ朋
友ニ通知セシキ婦人ニ命レテ悼亡ノ通禮ニ循
ヒ公衆ノ中ニ哀哭スルコトヲ止メタリ是ノ祭日
ニ會集シタル他邦人ノ前ニ於テ毀哀ノ容ヲ顯
ハセル者ハ生存者ノ人ノミニシテ死者ノ親族ハ
却テ欣然トシテ自得ノ色ヲナセリ斯巴爾達人
ハ斯ノ如ク矯飾スト雖流克多拉ノ敗軍ハ闔國
ノ大不幸タリ此ノ大敗ニヨリテ士巴爾達ノ與
シ易キコトヲ列國ニ示シタルガ故ニ白羅奔尼撒

ノ他邦ヲ威制シタル士巴爾達ノ勢力已ニ去リ
從來士巴爾達ニ服事シテ恭謙ナル者ト雖獨立
ヲ謀ラントスルノ志起レリ

諸國ニ先タチテ振起シタル者ハ亞爾加的亞人
ナリ此ノ時ニ至ルマテ亞爾加的亞ハ瑞西國ノ
カントンノ如ク許多ノ群邑即カントンニ分レ
タリシカ今此ノ諸邑ヲ合セテ一大國トナリノ
ガポリス即大都ト名ツクル首府ヲ起シ他ノ諸
邑ノ人民ヲ移シテ之ニ住セシメ衆徒一萬ノ大
公會ヲ開カンコトヲ論シ出ダセリ

エパミノンダス及德巴斯人ハ白羅奔尼撒ニ於
テ士巴爾達ノ貪暴ニ敵ス可キ一強國アラント
ヲ希ヒ一意亞爾加的亞人ノ謀ニ與セリ是ニ於
テ寇敵四方ニ起リ士巴爾達ノ恐懼實ニ大ナリ
亞爾加的亞人ハ曼地尼人ヲ接ケテ其ノ都ヲ再
興シテ之ニ歸センメタルニ士巴爾達人之ヲ妨
クルコト能ハズ其ノ曼地尼ト開戦スルコトヲ宣
告スルニ及ビテ德巴斯ノ全軍ハ同盟ヲ率井名
ヲ曼地尼保護ニ假リテ白羅奔尼撒ニ出テ遂ニ
拉哥尼亞ニ侵入セリ

然レ此ノ出師ニ於テエパミノンダスノ本意
ハ美塞尼亞國ヲ恢復スルニ在リ美塞尼亞人ハ
士巴爾達ノ抑制ヲ蒙レルト久シクシテ殆ト立
國ノ體ヲ失フニ至リ遂ニ希臘ノ各地ニ離散シ
タリレガ今エパミノンダス之ヲ招聚シテ其ノ
舊砦ナルイツムヲ再築シ美塞尼亞ヲ以テ再獨
立國トナサンヲ謀レリ
エパミノンダスノ軍拉哥尼亞ニ入りテ士巴爾
達ノ近地ニ營ヲ張リシキ士巴爾達人ノ喫驚殊
ニ大ナリ都府ノ近傍ヲ望メハ富人ノ莊宅ノ鹵

掠殘破セラレタル者アリ都府ニ接シテ流ル、
所ノイウロタス河ノ堤上ニハ敵人ノ往來スル
ヲ目撃ス士巴爾達ノ住民ハ昔ヨリ相語リテ此
國土ハ侵ス可ラス此ノ都城ハ取ル可カラスト
言ヒ傳ヘシガ實ニ嘗テ鐸利斯人が白羅奔尼撒
ヲ略取セシヨリ以來數百年ニシテ始メテ敵陣
ノ篝火ヲ見タリ
德巴斯人ハ士巴爾達人ト列ヲ整ヘテ對戦セン
ト欲シ數日ノ間士巴爾達ノ近郊ニ滯陣シタル
氏士巴爾達ハ戦ヲ欲セザルニ由リテエパミノ

ンダス此ノ首府ヲ去リテ他方ニ進ムノ上策タ
 ランコヲ知リ軍ヲ率井去テ數週間ニシテ白羅
 奔尼撒ヲ蹂躪セリ此ノ間ニ於テエパミノンダ
 スハ禮儀ヲ正シクシテイソムノ舊址ニ美塞尼
 亞ノ都城ノ礎石ヲ置ケリ是ノ時築キタル城址
 今尚存スル者アリ見ル者其ノ宏大ニシテ牢固
 ナルト其疊石ノ堅實ナルトヲ驚嘆セザルハナ
 シ
 美塞尼亞人ヲ其ノ國ニ復シタルト美塞尼亞ノ
 都城ヲ建築シタルトハ時人ノ絶大事業ト爲ス

所ニシテ希臘人ハ始テ古昔美塞尼亞ノ勇士ア
 リストメ子スガ其ノ死前ニ於テ此事ヲ預言セ
 シコヲ信シタリ
 士巴爾達人ハ外寇ノ禍難ニ際シ使ヲ亞地拿ニ
 遣ハシテ援兵ヲ請ヒシカバ亞地拿人之ヲ許セ
 リサレド其ノ援兵ハ大ニ用フ可キ時ニ及バズ
 エパミノンダスハ久シク白羅奔尼撒ニ滯軍ス
 ルノ意アラス其ノ來リシ所以ノ意ヲ達スルニ
 及ビテ軍ヲ引キテ本國ニ歸リ士巴爾達人亞地
 拿人モ亦皆之ヲ遮ルコト能ハズエパミノンダス

ノ國ニ歸リシキ國人ノ其ノ勞ニ報フル所以ハ
大ニ人ノ意表ニ出テタリ私險ノ小人エパミノ
ンダスノ成功ヲ妬ム者アリテエパミノンダス
及ペロピダスノ罪ビオタルクノ任期已ニ滿チ
テ後三月マテ其ノ職ヲ解カザルヲ以テセリ
然レモ一人アリテ兩人ノ國害ヲナシタルヲ
誠心ニ論シタル者アラザリシガ故ニ兩人終ニ
其ノ罪ヲ免レタリエパミノンダスハ此ノ事ヲ
以テ意ニ介セズ自宣言シテ若流克多拉士巴爾
達美塞尼亞ノ功名ト此ノ諸國ニ關係シタル吾

ガ事業トヲ以テ吾カ墓ニ刻スルヲ得ハ吾ハ
死ニ就クヲ惡マズト曰ヘリペロピダスハ大
ニ忿怒シ後自其ノ誣告者ノ罪ヲ彈劾セリ
前役ノ後德巴斯人ハ三タビエパミノンダスニ
從ヒテ白羅奔尼撒ニ攻メ入りタリ然レモ事皆
初ノ如ク己ニ便ナルコトヲ得ス亞地拿人ハ公
然トシテ士巴爾達ヲ助ケ且亞爾加的亞人ハ自
盟主ダランヲ望ミ德巴斯ノ權勢ヲ擴張スル
ヲ願ハス加之エパミノンダスノ宿志ハ德沙
利亞ノ新敵ノ爲ニ攪動セラレタリ

德沙利亞ハ希臘ノ如ク古ヨリ分裂シテ許多ノ
國邑ヲ成シ各國時々合從ヲ唱ヘタルヲアリシ
カニ其ノ實ハ皆獨立タリ是ヨリ先ニ一大姓アリテ
諸國ヲ威制シ其ノ族世々政柄ヲ握ルヲ宛
國君ノ如ク其ノ貪驕殘虐ナルヲ暴吏ノ如クナ
リ其ノ末世ニ至リ暴戾最甚シク德沙利亞人命
ニ堪ヘズ遂ニ兵ヲ舉ケテ之ニ叛キ援ヲ馬基頓
王ニ乞ヘリ馬基頓王暫ク之ヲ助ケタレモ王位
ヲ覬覦スル競敵アリテ國內大ニ擾亂セシヨリ
巴ムヲ得スシテ馬基頓ニ歸レリ

德沙利亞人次ニ救ヲ德巴斯ニ求メケレバ德巴
斯人ハペロピダスヲシテ軍ヲ率井テ德沙利亞
ニ至ラシメタリ然ルニ暴君ハペロピダスノ威
ヲ恐レ悉其ノ要約ニ從ヒ曾テ抗闘セスベロピ
ダス因テ馬基頓ノ紛擾ヲ解カンカ爲ニ其ノ國
ニ招カレ其ノ緊要ナル事件ヲ盡ク整テ希臘ニ
歸レリ

然レモペロピダスハ久シク安逸ナルヲ能ハズ
德沙利亞ノ暴君ハペロピダスカ去リテヨリ後
復制馭スル者ナキニ因リテ舊ノ如ク暴虐ヲ行

ヒシガ故ニペロピダス再德沙利亞國ノ平和幸
福ヲ計ラントシテ復其ノ國ニ至リシカバ暴君
ハ乃ペロピダス及從行ノ一友人ヲ獄ニ繫囚セ
リ
是ニ於テエパミノンダスハ已ムヲ得ス白羅
奔尼撒ノ事件ヲ捨テ、繫囚セラレタル朋友ヲ
救ハンカ爲ニ軍ヲ率井テ德沙利亞ニ向ヘリ此
ノ征伐ノ易スカラサルハ意料ノ外ニ出テ暴君
ノ威權ハ邦内ニ於テ甚強ク且亞地拿人ノ應援
アリ故ニ德沙利亞ハ再度ノ侵伐ヲ蒙リテ後始

ノテ其ノ囚虜ヲ免シ出セリ
是ノ時希臘ハ列國ノ各私利ヲ營ムニ因リテ分
離擾亂シタルコトヲ知ルベシ復國ノ爲ニ公益
ヲ謀ル者無ク前日ハ外國ノ内事ニ關涉スル
ハ其ノ大ニ惡ム所ナリシカ今ハ明ニ他邦ニ救
援ヲ乞フヲ以テ當レリト爲シ德巴斯士巴爾達
ノ兩國皆使節ヲ波斯國ニ遣ヒテ王ノ援助ヲ乞
ヒペロピダスモ亦德沙利亞ヨリ歸リテ後便亦
此ノ使者ノ一人トナリタリ
波斯王ハ德巴斯人ノ其ノ國ト多年相親睦セシ

ヲ以テ德巴斯ニ黨シペロピダスト議シテ和親ノ條約ヲ定メ他ノ諸國ヲシテ之ニ從ハシメントシタレモ一人モ之ニ同意スル者無クシテ爭亂依然タリ

亞爾加的亞人ハ今其ノ力能ク德巴斯ニ依賴セザルニ足レリト謂ヒ乃助ヲ假ラスレテ士巴爾達ト相續テ戰爭アリシガ一大戰ニ於テ敗衄ヲ取リ強大獨立ノ國タラントスルノ望都テ絶エタリ是ノ役ニ拉塞特蒙尼亞人ハ一箇ノ戰死セシ者無カリシガ故ニ世人之ヲ無淚ノ戰ト呼ベ

エパミノンダスハ始終德巴斯ヲシテ希臘列國ニ霸タラシメントスル一大志ヲ立テタリシガ白羅奔尼撒ノ強盛ヲ願フ者皆之ヲ知リテ之ヲ厭惡シエパミノンダスガ其ノ國ヲ強クシ他國ヲ弱メントスル意アルヨリシテ常ニ士巴爾達ノ威カヲ畏忌セシ者ト雖今ハ之ト連和センコト欲シタリ

德巴斯ノ權威ハ忽起リ忽衰ヘエパミノンダスが壯圖大功ハ則白羅奔尼撒ノ第四次ノ征戰ヲ

以テ終レリエパミノンダス屢敵ヲ攻撃シテ未
勝利ヲ得ル能ハズ其ノ兵權ヲ委任セラレタ
ル期限將ニ滿チントセリエパミノンダス一勝
ヲ得スレテ徒ニ本國ニ歸ルニ忍ヒス乃曼地尼
ノ近傍ニ於テ敵軍ニ會シ危險ヲ冒シテ一大戰
ヲ試ミンコトヲ決セリ軍士皆之ヲ聞キテ大ニ喜
ヒ甲兵ヲ堅利ニシ威容ヲ整頓スルコト恰モ祭
日ノ如ク皆奮然トシテ敵軍ニ趣ケリ此ノ戰ハ
實ニ耶蘇以前三百六十二年七月八日ニシテ秋
收ノ時ナリ士巴爾達人ハ復亞地拿ノ援ヲ得タ

リト雖德巴斯人心ノ勇決ナル狀ヲ知ラザリシ
カ故ニ其ノ激戰ニ逢ヒテ敗績セリ然ルニ戰マ
サニ勝タントスルキエパミノンダスハ重傷ヲ
蒙リテ戰場ヨリ扶ケラレテ高阜ノ戰狀ヲ瞰ル
ベキ地ニ移レリ其ノ時氣息奄々トシテ將ニ絶
エナントスレ氏目光猶爛然トシテ軍士ノ舉動
ヲ注視スル者ノ如シ敵人ノ刺ス所ノ槍柄猶身
ニ留リテ之ガ爲ニ苦痛最甚シケレ氏之ヲ拔カ
バ則死ナント告ケラレタルニ由リテ自苦痛ヲ
忍ビ居タリ忽側ニ在ル友人ガ德巴斯ノ全勝ヲ

告クルヲ聞キテ然ラハ善シト呼ビ徐ニ傷所ノ
槍柄ヲ抜キテ乃死セリ

エパミノンダスハ吾人カ史中ニ見ル所ノ如ク
性行善良ナル者ナリ其ノ國ノ爲ニ争戦スルハ
國民ヲシテ他國ノ羈絆ヲ脱セシメンガ爲ニ起
レリ其ノ後ニ至リテハ自國ノ權カヲ擴張セン
トシテ甚驕貪ナル者ノ如レト雖吾人ハ當時人
心ノ盡ク斯ノ如キ謀ニ銳意セシトエパミン
ンダスガ他國ヲ制御スル權勢ヲ保チシ片常ニ
温和寛厚ヲ以テ之ニ臨ミシトヲ記セザル可

カラス且異教ノ民ハ基督教國ノ規則ヲ以テ一
概ニ其ノ是非ヲ判ス可カラス名譽ヲ愛スル
ハ其ノ常ニ教誨セシ所ニシテ嘗テ一人ノ敢テ
名譽ヲ慕フノ罪惡タルヲ論レタル者ナキナリ
ペロピダスハエパミノンダスニ先ダツテ二年
ニシテ死セリ初波斯ヨリ歸リテ後再德沙利亞
ノ暴君ニ偏リテ其ノ人民ノ爲ニ其ノ國ニ戦死
セリペロピダスノ最後ノ一戦ハエパミノング
スノ如ク亦勝利ナリ是ノ後德沙利亞ノ暴君ハ
全ク德巴斯ニ服從シタリ

德沙利亞人ハペロピダスノ己等ガ爲ニ盡カシタル功勞ニ感シテ德巴斯ニ請ヒテ其ノ屍ヲ德沙利亞ノ地ニ埋葬セリ

德巴斯ノ戦争ノ時ニエパミノンダスノ強敵タリシ士巴爾達王アゼシラウモペロピダスト同年ニ没シタリアゼシラウハ逆徒ノ波斯王ニ叛キテ亂ヲ埃及ニ起シタル者ヲ助ケンガ爲ニ軍ヲ出ダシ、時歳己ニ八十ニシテ其ノ歸途ニ於テ亞非利加ニ死セリアゼシラウノ能ク大勞ニ耐フルヲ見ルニ蓋其ノ身體甚壯健ナラン且平

素ノ奉養甚淡薄ニシテ逸慾ヲ以テ其ノ身ヲ害スルヲアラズ人トナリ甚寛仁ニシテ敬愛ス可ク其ノ性質ノ尤著シキ者ハ大ニ其ノ兒子ヲ親愛スルヲナリ一日アゼシラウガ其ノ兒輩ト共ニ竹馬ニ乘リテ遊ビシ時友人之ヲ見テ驚キ君ハ此等ノ事ヲ以テ自娛トスルカト問ヒケレバアゼシラウハ唯君ノ人ノ父タルマテハ此ノ事ヲ談スルヲ勿レト對ヘシトゾ

第三十五篇

亞地拿人ノ德ハエパミノンダスガ死セシ片ニ

消滅セリト云ハル語ハ大ニ事實ニ當レル者ニ
 シテ獨亞地拿人ノミナラス希臘全土盡ク然リ
 德巴斯ノ勢力既ニ衰ヘ復戰爭ヲ續ク能ハサル
 ニ因リテ干戈始メテ斂マリ復氣力ノ用井ル可
 キ所ナカリシカバ希臘人皆怠惰驕逸ニ陷リテ
 亞地拿ヲ殊ニ甚シトス亞地拿人平時ハ自法庭
 ニ出テ又劇場ニ遊フヲ事トシ兵亂起リテ軍士
 ヲ要スルヲアレバ躬戰ハスシテ獨兵卒ヲ傭ヒ
 既ニ之ヲ傭フテ傭錢ヲ與フヲ能ハズ兵卒ハ傭
 錢ヲ得レハ他事ハ復顧ルコトナシ

斯ノ景狀ノ如キ國ハ適ク他國ノ征服ヲ待ツ者
 ノ如シ希臘顛滅ノ實ハ未至ラズトモ其ノ兆ハ
 既ニ曼地尼ノ役エパミノンダスノ戰死ノ後ニ
 見レタリ此ノ時希臘人ハ歐邏巴ノ最開化シタ
 ル者ト稱譽セラレ苟知識ト才藝トヲ以テ名ヲ
 舉ケンコトヲ欲スル者ハ皆希臘人ヲ學バンコトヲ
 勉メタリ

馬基頓ハ德沙利亞ノ北ノ大國ニシテ此ノ時ノ
 王タル者ヲ非立ト曰ヘリ非立ハペロピダス及
 德巴斯人ガ德沙利亞ヲ救ヒシ前ニ其ヲ助ケタ

ル馬基頓王ノ弟ナリ非立ノ幼キ時馬基頓國ニ
 大亂アリレカバ非立ハ其ノ國ヨリ出奔シ德巴
 斯ニ於テ生長セリ世ノ傳フル所ニハエパミノ
 ンダス之ガ師トナレリト云フ是ヲ以テ非立ハ
 自然ニ希臘ノ風俗才能及文化ヲ仰慕シ數年ノ
 後國ニ歸リテ王トナルニ及ヒテ其ノ切ニ願フ
 所ハ馬基頓ヲ開化シテ希臘列國ノニタラシメ
 然ル後ニ其ノ權カヲ施サントスルニ在リ非立
 ハ正レクヌノ如キ志願ヲ遂クルニ堪ヘタル人
 ナリ世變ヲ悟了スルヲ甚敏ニシテ大ニ資辨ア

リ尤他人ヲシテ己ガ説ニ從ハシムルヲニ巧ナ
 リ加之容貞秀美ニシテ威儀アリテ舉止溫雅ナ
 リ且其ノ壯健ナルヲ何如ナル勞苦ニモ屈セザ
 ル人ナリ
 非立ガ始メテ馬基頓ノ政ヲ執リレキハ正統ノ
 嗣君ナル幼姪アルニヨリ敢テ王號ヲ稱セスレ
 テ只幼君ノ攝政タルヲ公言シタリ然レ氏是
 ノ時馬基頓國ノ形勢甚危ク兵亂四方ニ起リ王
 位ヲ覬覦スル者一ナラズ此ノ多難ノ時ニ際シ
 馬基頓人ハ幼主ヲ捨テ、政府ノ全權ヲ威力ア

ル長君ニ委スルヲ嫌ハス是ノ故ニ非立年約
二十四歳ノ時カヲ勞セズレテ馬基頓王ノ眞位
ニ即キ幼姪ヲ宮中ニ養ヒ長スルニ及ヒテ其ノ
女ヲ以テ之ニ妻セリ

亞地拿人嘗テ非立ノ競敵ニ誘ハレテ之ヲ援ケ
タリシカ氏非立ハ兵連リ禍結ハンヲ懼レテ
亞地拿ト兵ヲ構フルヲ欲セズ其ノ亞地拿ノ
援兵ト戦ヒ其ノ兵士ヲ虜ニセシ片情意ヲ盡シ
テ之ヲ款待シ之ニ物ヲ贈リテ脱還セシメ其ノ
本國ニ歸ルニ及ヒテ非立之ト共ニ使者ヲ遣ハ

シ其ノ亞地拿ノ敵タルヲ願ハザルノ意ヲ述
ヘテ其ノ親交ヲ請ハシメタリ亞地拿人使者ノ
甘言ヲ悦ビ速ニ馬基頓王ノ朋友タラシテ諾
セリ然レドモ亞地拿人が非立ノ信義ヲ疑フ所
以ノ事情忽起レリ馬基頓ノ部内ニ亞地拿人ノ
開殖シタルアンヒポリスト云ヘル都邑アリ甚
要地ニシテ亞地拿人ノ尤領スルヲ願フ所ナ
レ氏其ノ人民嘗テ獨立ヲ唱ヘタリ非立之ト釁
ヲ開キ兵ヲ以テ之ヲ圍ミ亞地拿人ノ少ク驚懼
スル所アルヲ見テ密ニ亞地拿人ニ告ケテ設令

之ヲ取ル氏吾ガ有タントスルニ非ズ唯亞地拿
 人ニ復センノミト曰ヘリ然レ氏アンヒポリス
 ヲ取リレニ及ヒテ復其ノ前約ノ言ヲ顧ミズ又
 其ノ約ニ背キテ地ヲ復サバルノミナラズ又軍
 ヲ回ラレテ亞地拿人ノ一邑ナルピドナヲ攻メ
 テ之ヲ取レリ是ノ時亞地拿人國事多端ニレテ
 此ノ怨ニ報スルニ暇ナカリシハ非立ニ在リテ
 ハ幸ナリ非立ノアンヒポリスヲ圍ミシ時ニ方
 リテ亞地拿人軍ヲ憂卑亞島ニ送り島人ヲ助ケ
 テ其爭亂ヲ鎮メ其ノ後久シカラズレテソレ

ヤルヲール仲間合戦ト名ツクル三年間ノ戦争起リ
 テ亞地拿人其ノ全カヲ以テ之ニ從事セリ
 此戦争ハ小亞細亞ノ海岸及近海ノ諸島ナル亞
 地拿ノ與國俱ニ不平ヲ抱キタルヨリレテ起レ
 ル所ナリ是ニ於テ亞地拿ノ權威猶海上ニ行ハ
 レ此等ノ諸國邑ヲ保護スト稱スレ氏之ヲ遇ス
 ルヲ抑壓不正ノ處置甚多カリケレバ諸邑ノ勢
 カアル者其ノ自守スベキヲ宣告シ亞地拿人
 ノ其ノ保護ニ托シテ求ムル所ノ貢幣ヲ與フル
 ヲ拒ミタリ

亞地拿人ハ其ノ自權理ト認メ做ス所ノ者彼ノ
人等乃之ヲ貸スヲ欲セザレバ征戰乃此ニ由
リテ起レリ然レモ此戰ハ亞地拿人ニ甚不幸ニ
レテ老練ノ諸將ヲ失ヒ鉅額ノ貨幣ヲ費シ末ニ
至リテ反逆シタル諸邑ト和議ヲ講シテ其ノ獨
立ヲ許シタリ

是ノ同年ニ又他ノ争戰起レリ世ニ之ヲ神聖戰
ト稱シテ亞地拿ノミナラズ希臘列國殆ト皆之
ニ關レリ

其ノ發端ハ德巴斯人トホレス人トノ争論ヨリ
生セリ此ノ二國人ハ陽ニ親交ト稱スト雖陰ニ
互ニ敵視スルヲ久シホレス人嘗テ時人ノ靈場
トシテ崇敬スル土地ヲ耕シタリケレバ德巴斯
人之ヲ罪スルニ不信不敬ト云フヲ以テシ自往
キテ之ヲ論ゼザレモ德沙利亞人ヲ誘ヒテ此ノ
罪狀ヲアンヒクシヨシノ公會ニ訴ヘシメタリ
此公會ハ各國ノ委員年毎ニ會集シテ教門ノ争
論ヲ裁判シ又特爾斐ノ祠堂ノ公祭ノ典禮ヲ議
スル者ナリ

ホレス人ハ鉅額ノ罰金ヲ拂フヲ命セラレ之
 ヲ拒マバ其ノ領地ヲ剥奪スベキトニ決セリ士
 巴爾達人モ亦之ト同シキ責罰ヲ蒙レリ是ハ其
 ノ嘗テ德巴斯ノ内城所謂カドミアヲ私ニ占有
 シタルキニ此ノ公會ヨリ科セラレタル罰金ノ
 償還ヲ緩フルニ由ルナリ

然ルニ士巴爾達人ホレス人并ニ此ノ審斷ニ意
 ヲ留メザリシカバアンヒクシヨンノ公會ハ審
 斷ヲ實行センガ爲ニ盡希臘列國ヲ招キ之ヲ連
 合セシメタリ然レモ亞地拿人ハ之ニ應セズシ

テ士巴爾達ニ左袒セリホレス人ハ固ヨリ士巴
 爾達ニ連合セリ

昔時ホレス人ハ特爾斐ノ都府及其ノ寶藏ノ監
 守ト稱セラレタリ然ルニ今此ノ神靈ナル都府
 ヲ得ル者ハ戰ヒテ必勝タンヲ察シ此ノ都府
 ヲ取り併セテ祠堂ノ寶藏ヲ奪ハンヲ計リテ
 遂ニ其ノ志願ヲ遂ケタリ是レ神聖戰ノ第一次
 ナリ士巴爾達人ノ關スル所ノ戰ハ專白羅奔尼
 撒ニ在リホレス人ハ祠堂ノ寶藏ヨリ鉅萬ノ金
 ヲ取り之ヲ以テ兵ヲ傭ヒテ自助ケ且ヒロメリ

ユスト云フ老將アリシカバ此ノ戰ノ初ニハ勝
利最多カリシカ三年ニシテヒロメリユス死シ
其ノ久シカラサルニ一大勁敵新ニ出デタリ是
他ニ非ス即馬基頓王非立ナリ非立ハ德沙利亞
ニ於テ兵威ヲ輝カシ殆之ヲ征服シタリシガ今
ホシス人ノ敵國ナル德沙利亞ノ人民ヲ助クル
ニ托シテ神聖戰ニ干預スル機會ヲ得タリ
非立ノ此ノ戰ニ預リシハ神靈戰ノ重大ナル事
態ニシテ諸國ノ紛争ハ之ニ比スレハ瑣々タル
事ニ過キス士巴爾達亞地拿ホシスニ敵スル諸

國ハ皆非立ヲ以テ朋友同盟トナセリ然ルニ強
國ノ君弱國ノ同盟トナルキハ其ノ之ガ君主ト
ナルヲ蓋亦難カラス

第三十六篇

亞地拿人ハ馬基頓王非立ガ此ニ至ルマデハ多
ク神聖戰ニ加ハラザリシガ是ニ至リ却テ之ガ
爲ニ警覺シ且非立ノ馬基頓及亞地拿ノツレ
ス海濱ニ開殖シタル地及ヒ亞地拿ニ隸屬シタ
ル諸邑ノ主トナランヲ欲スルヲ見テ非立ガ
本志ノ在ル所ヲ疑ヘリ是ノ時首トシテ亞地拿

人ニ其ノ危難ヲ知ラシメタル者ハ特摩西尼士
ト云ヘル辨士ナリ特摩西尼士ハ亞地拿ノ商人
ノ子ナリ幼稚ノ時軟弱多病ニシテ兒童ノ遊嬉
ヲ與ニスルコトダモ能ハザリシカバ其ノ人ト
ナリテ功名ヲ世ニ立ツルヲ能ハサルヲ知り因
テ文學ヲ以テ多ク光陰ヲ費シ又家ニ資財ノ饒
ナラザルヲ以テ自驕奢ニ流ル、憂ナシ特摩西
尼士ノ本志ハ一ニ辨論ヲ善クスルニ在リ由リ
テ大ニ名望ヲ國人ニ得ンヲ望メリ然レモ其
ノ天資上達ヲ資ルニ足ル者ナク其ノ音吐高朗

ナラス其ノ言語艱澁其ノ文蕪雜ニシテ其ノ舉
動又鄙俗ナリ其ノ始メテ衆中ニ於テ演說シタ
ル片嘲笑ノ聲堂ニ滿チタリ然レモ此ノ時己ニ
特摩西尼士ノ大才ヲ發見シテ懇切ニ之ヲ獎勵
シタル者アリ且一老人幼時嘗テペリクレスノ
演說ヲ聽ク者アリ今特摩西尼士ノ演說ヲ聽テ
能ク往時ノ大辨者ヲ回想セシメタリト曰フト
云フ
但箇ノ教育ノ善キト忍耐ノ大ナルト無カリセ
ハ特摩西尼士ノ穎敏ヲ以テスレドモ其ノ素志

ヲ達スルコトヲ得ベカラザラン幸ニシ特摩西
 尼士ハ此ノ二利ヲ兼子有テリ且亞地拿ノ一名
 優專其ノ短所ヲ匡正シ特摩西尼士謙虛ニシテ
 之ヲ聽キ能ク刻苦シテ業ヲ脩メ一時朋友ノ交
 ヲ謝シ至難ニシテ耐ヘザル方法ヲ行ヒ成シテ
 其ノ語音ヲ正シクシ其ノ容儀ヲ脩メタリシカ
 バ爾後公衆前ニ於テ競敵ナキ辯士ト稱セラレ
 タリ特摩西尼士ノ事ニ勉強スルハシユシダイ
 テスノ歴史ヲ八回騰寫シテ原本ノ秀麗ナル書
 體ヲ學ヘルト云ヘルニテ證スルニ足レリ

今亞地拿人ヲ煽動シテ馬基頓ノ非立ノ威力ニ
 抗セシムルヲ以テ本意トナセル者ハ此穎敏
 忍耐ナル辯士ニシテ此ノ事ニ就テ爲シタル演
 說ヲヒリツピツクト名ツケ其ノ論スル所智慮
 周密ニシテ氣力充溢セリ亞地拿人モシ其ノ祖
 先ノ精神ヲ失ハザリセバ必之ガ爲ニ獎勵シテ
 其ノ嘗テ太流士及澤耳西ニ抗セシガ如ク非立
 ニ抗センヲ疑ナカラシ非立ノ威勢實ニ強盛ナ
 リ然レモ特摩西尼士ノ衆ニ告ケシガ如ク非立
 ノ強大ハ人事ニ超過シタル神カアリテ然ルニ

非ス亞地拿人ノ遲鈍怠慢ナルニ在リ非立ノ強盛ナル亞地拿人猶其ノ卑陋ヲ守ラバ彼ノ蠶食ヲ取ル已ムコトナカラシ故ニ當時ノ要務ハ府民タル者今ノ軍役ヲ嫌フガ如キ陋習ヲ脱シ自勵ミテ戰ニ臨ムニ在リ何トナレハ雇卒ハ敵ヲ求メスレテ唯其ノ同盟ヲ掠ノ雇錢法ノ如ク給セラレサルキハ去リテ又他ノ雇主ニ求メンコトヲ欲シテナリ

特摩西尼士ハ此ノ忠告ノ外ニ又戰略ヲ畫シテ備フベキ船數ト募ルベキ兵數トヲ説キ出ダセ

リ然レモ是等ノ畫策ハ亞地拿人ニ於テ何ノ效驗ヲ出タセリヤ否ヤヲ審ニセス亞地拿人ノ勇敢ナル氣力ハ地ヲ掃ヒテ盡キタルナラン且亞地拿ノ賢人中ニモ人民ヲ獎勵スルヲ務メス其ノカラ度リテ便利ナル條約ヲ結ヒ非立ノ君主タランモ其ノ和親ヲ失ハザルヲ上策トシタル者アリ特摩西尼士ト并ベ稱セラル、辨士ホレオンモ國事ニ於テ此ノ説ヲ持セシ者ノ一人ナリホレオンノ人ト爲リ方正ニレテ慈惠アリ舉止嚴肅ニシテ奢侈ヲ賤シシ諂諛ヲ惡メリ然

レ氏尚馬基頓ノ非立ノ威焰ヲ抗拒センコトヲ
謀ルニ至ラス

是ヲ以テ特摩西尼士ハホレオント議論合ハス
ホレオンガ其ノ後ニ出テ、演說スル毎ニ其ノ
己ノ演說ノ影響ヲ擾スコトヲ恐レ常ニ其ノ朋友
ニ私語レテ爰ニ來タルハ吾ガ演說ノ斧斤ナリ
ト曰ヘリト云フ

神靈戰ハ紀元前三百四十六年ニ及ヘリ曾テ一
人ノ之ニ由リテ利ヲ得タル者ナシ獨非立ハ一
國ヲ助ケテ一國ヲ攻メ因テ兩國ノ君トナリ漸

勢威ヲ希臘ニ振ヒ又能ク衆ヲ欺キテ其ノ術ヲ
悟ラザラシメタリ亞地拿人終ニ特蒙西尼士ノ
演說ニ由リテ自奮發シ合從レテ非立ヲ抗拒セ
ンコトヲ希臘列國ニ勸メタル時非立預メ諸國ニ
賂ヒテ動搖セザラシメタリ因テ亞地拿人ニ應
スル者ナシ亞地拿人スラ非立ガ親睦ヲ表スル
甘言ニ從テ一時之ニ安慰セリ希臘人が神聖戰
ヲ厭ヒテ之ヲ熄メンコトヲ願ヒシ片和親ノ條約
ヲ定ムルコトヲ委子ラレタル者ハ非立ナリ非立
ハアンヒクレヨンノ公會ト共ニホレス人ノ爲

ニ盡カセシメテ約シタルガ故ニホレス人モ同
 シク非立ガ此ノ和約ニ關係スルヲ許サシムラ
 望ミタリシガ又大ニ其望ヲ失ヘリ非立ハホレ
 ス人ノ爲ニ一事ヲ計ラス公會ハ慘酷ノ罰ヲ以
 テホレスニ加ヘ德巴斯及馬基頓ノ兵隊ヲシテ
 之ヲ課セシメタリ二十ニ都邑ハ悉ク破毀セ
 ラレ遠隔ノ開植地ニ投竄セラレ留ル所ノ貧民
 ハ特爾斐ノ祠堂ニ償還スベキ鉅額ノ金ヲ殖セ
 シガ爲ニ荒蕪ノ野ヲ開耕セリ
 又ホレス人ハアンヒクシヨンノ同盟ノ會員ニ

非スト布告セラレ馬基頓ノ非立之ニ代リテニ
 箇ノ發議ノ權ヲ有テリ非立又特爾斐ノ都府及
 祠堂ノ監守ト稱シ且哥林西人ノホレス人ヲ援
 クルニ由リテピレヤンノ較技會ノ總長タル
 榮譽ヲ保ツニ足ラスト爲シ非立之ニ代リテ總
 長トナレリ
 然レモ非立ハ手ヲ袖ニシテ希臘ヲ管治スル
 ヲ得ベカラズ非立アンヒクシヨンノ同盟ノ會
 員ニ列シタルニ因テ公會ハ非立ヲ仰キテ扶持
 ヲ要ノ神聖戰ノ終リシ後數年ニシテ非立ヲ諸

軍ノ總督ニ任レ一小國ノ人民神明ヲ褻瀆シタルニ由リテ公會ヨリ命スル罰條ヲ實行セシメントシタリ

非立ハ亂ニ乘レテ利益ヲ得ンヲ望ミ窃ニ此ノ爭論ヲ煽動シタリ故ニ敢テ此ノ任ヲ辭セス然レ氏徒ニアンヒクレヨンノ命令ヲ奉行スルヲ以テ満足セズシ又急要ナラザル大軍ヲ起シテ其制御ニ從ハザル諸邑ヲ略取セリ是ニ於テ群國激怒シ亞地拿德巴斯哥林西及諸小國ノ人民合從シテ一體トナリ非立ヲ抗拒シ又常ニ非

立ニ黨スル者モ其ノ國人ト相讐セシテ欲セスレテ敢テ非立ニ與セズ士巴爾達及白羅奔尼撒ノ諸國ハ曾テ此ノ事ニ與ラス紀元前三百三十八年兩軍白阿西亞國ノケイロニアノ野ニ會戰セリ此ノ戰ハ大ニ希臘ノ自主ヲ害シタリ亞地拿人ハ武事ニ習熟セサルヲ久シク將帥皆兵ヲ知ラズ馬基頓人ハ之ニ反シテ戰爭ニ熟練スルノミナラズ非立王ノ號令ト太子亞勒山得ノ出ツルニ因テ其ノ勇氣自倍セリ是ノ時德巴斯人尤久シク其ノ所ヲ守リテ退カ

ズ神聖隊ハ能ク戰テ悉ク死スルニ至リ僅ニ一人ヲ餘スト云フ特摩西尼士モ亦此ノ役ニ在リシガ其ノ逸走スルヲ以テ怯懦ノ名ヲ取レリ然レモ衆ニ先ヲテ走リタルニ非ス戰ノ終ニ利ナキヲ見レハナリ

ケーロニアノ戰ニヨリ列國皆馬基頓ノ非立ニ抗スルヲ畏レシカバ非立遂ニ希臘ノ君主トナレリ然レモ非立其ノ權ヲ用ヰルヲ寛大ナリ或人非立ニ勸ムルニ嚴酷ヲ以テ亞地拿人ヲ遇スルヲ以テス彼等ハ王ノ榮名ノ劇場ヲ毀タ

ントシタリト論シタレモ非立ハ此等ノ言ヲ聽クヲ欲セズ非立カ亞地拿人ニ要スル所ハ只沙摩斯島ヲ己ニ與フルト明年哥林西ノ希臘公會ニ其ノ委員ヲ送ルトノ二事ニシテ亞地拿ノ政府ハ舊ノ如クシテ變セサルヲ許セリ徳巴斯ハ稍嚴法ヲ以テ處セラレ白羅奔尼撒ノ諸國ハ萬事皆非立ノ節制ニ服從セシム士巴爾達人ハ自立不羈ナリト稱スレモ獨之ニ抗スルヲ克セズ翌年ノ春士巴爾達ノ外希臘列國ノ委員盡ク非立ノ命ニ應シテ哥林西ノ地峽ニ會シタ

リ此ノ時王衆委員ニ向ヒ己ガ功名ノ大主眼ハ
波斯國ヲ征服スルニ在ルヲ陳述シ列國兵ヲ
出ダシテ之ヲ援ケ己ハ無限ノ權ヲ以テ之ガ元
帥タラシテ發議セリ斯ノ如キ發議ハ發議ニ
非スシテ實ニ號令ナリ然レモ此ノ行ヲ戒ムル
ニ暇アラズシテ一年ヲ經過シ其ノ年ノ終ラザ
ルニ非立ガ大志忽焉トシテ瓦解セリ
非立某ノ愛女ヲエヒリユス王ニ嫁シテ其ノ婚
儀ヲ祝セシキ馬基頓ノ舊京ナルエーピアノ都
城ニ他邦ノ人充滿シ唯本日祝賀ノ賓客ノミナ

ラス希臘ノ諸大國ヨリ此ノ大君ニ獻スル黄金
ノ冠ヲ奉シタル使節モ亦此ニ集レリ婚儀己ニ
畢リテ饗宴之ニ繼ケリ是時非立坐ニ在ル伶人
ニ波斯ノ遠征ニ適當スル辭章ヲ誦スルヲ命
ジ、カハ伶人命ニ從ヒテ其ノ泰侈倨傲及富饒
ヲ頌シ既ニシテ又人ノ死ハ隱レタル路ヨリ見
エズシテ近ツキテ須臾ニ人ノ熾ンナル望ヲ截
ツト云フヲ誦シタリ翌日ハ劇場ニ於テ大饗
アルベキニヨリ觀者早晨ヨリ集マリテ劇場ニ
充斥セリ須臾アリテ堂々タル行列ハ十二ノ神

隊ト王ノ肖像トヲ奉シテ來タリ王ハ身ニ白衣ヲ着ケ頭ニ祝日ノ花冠ヲ戴キ相次テ此ニ出テタリ

大衆齊シク呼ヒテ王ノ至レルヲ祝セリ轉瞬ノ間ニ一少年衆中ヨリ進ミ劍ヲ衣服ノ中ヨリ拔キ出ダシテ之ヲ王ノ脇腹ニ刺シタリ是ニ於テ馬基頓ノ非立死セリ

第三十七篇

非立死亡ノ新報亞地拿ニ達セシ時ニ當リテ特摩西尼士ハ七日前ニ於テ一人ノ女兒ヲ喪ヒ哀

悼ノ中ニ在リシガ此ノ報ヲ得ルニ及ヒテ希臘今日ヨリ暴主ノ羈絆ヲ脱シタルヲ思惟シ喜悅ノ餘ニ自家ノ私哀ヲ忘レタリ希臘ノ風俗ニ由レハ特摩西尼士ハ猶亡女ノ爲ニ凶禮ヲ行フ可カリシカニ纔ニ非立ノ死ヲ聞キ身ニ白色ノ吉服ヲ着ケ頭ニ花冠ヲ戴キ容色依然トシテ禮ヲ備ヘ公有ノ祭壇ニ犧牲ヲ供シタリ人民モ特摩西尼士ト慶ヲ同シクセシカニ乃希臘人大ニ祝賀ス可キ所ニ非サル者生セリ非立ハ實ニ死セリ然レニ嗣君父ノ大志ト才略トヲ繼キテ實

ニ他日希臘ノミナラス當時人ノ知レル所ノ世
 界ノ大半ノ主トナレリ
 此ノ嗣君亞勒山得幼時ヨリ人ノ君タル可キ精
 神ヲ露セリ非立嘗テ德沙利亞ヨリボツセフア
 リユスト云ヘル雄壯ナル馬ヲ贈ラレシガ其ノ
 驍悍ニシテ御ス可ラザルニ由リテ之ヲ還サン
 トス亞勒山得猶妙齡ナリシカ尺之ヲ聞キ自馴
 御ノ術ヲ試ミンコフヲ請ヒ乃馬側ニ至リ且呼ヒ
 且慰メ徐ニ之ヲ撫循シ其ノ影ヲ見テ驚愕セサ
 ラシメンガ爲メニ之ヲ日光ノ及バサル所ニ立

タレノ然ル後背後ヨリ之ニ乘リ轡ヲ按シ雍々
 トシテ馳騁シ了レリ非立其ノ馬ノ竟ニ馴狎ニ
 歸スルヲ見テ歡喜シテ涙ヲ濺キ亞勒山得ヲ抱
 キテ吾ガ愛子ヨ馬基頓ハ汝ノ器ニ適スル國ニ
 非サレバ更ニ汝ガ主タルニ足レル大國ヲ求メ
 ヲト號ビタリ然レ尺後ニ父子相親シカラザル
 ニ至レリ非立屢妻ヲ納レ亞勒山得ノ母ヲ寵セ
 ザリシカバ亞勒山得ノ母ハ固妬悍ナルガ故ニ
 其ノ子ヲ怨憑シテ殆ト父ニ叛カシメタリ亞勒
 山得モ亦常ニ父ノ己ヲシテ王位ヲ嗣クヲ得サ

ラシメント欲スルヲ疑ヒシカハ是蓋亞勒山
得ノ臆想ニ出テシ者ニシテ非立ハ曾テ亞勒山
得ヲ厭棄スル心無クシテ大國ノ主タルニ適當
セル教育ヲ施セリ

亞勒山得ノ師傅トナレル者ハ碩學亞理士董篤
兒ナリ亞理士董篤兒ハ馬基頓ノ一邑ナルスタ
ガラノ人ニシテ其智識ヲ以テ名ヲ擅ニシタル
亦亞勒山得カ將來ニ於テ武功ヲ顯シタルガ
如シ馬基頓ノ非立德巴斯ニ在リシキ亞理士董
篤兒ハ亞地拿ニ住シタリ亞理士董篤兒ノ父曾

テ非立ノ父ノ醫官タリシヲ以テ二人舊ヨリ互
ニ通知シタリ但其ノ親交ヲ結ヒシハ希臘ニ於
テシテ非立ガ王タル後ニ至ルマテ交情衰ルヨ
トナレ非立ハ亞勒山得カ初メテ生レシキヨリ
蓋亞理士董篤兒ヲ師傅ニ定メシモノナラン幼
君ノ生誕ヲ亞理士董篤兒ニ報シタル書牘ノ中
ニ吾此ノ兒ヲ賜ハレルガ爲ニ諸神ノ惠ヲ謝ス
レ其ノ情ニ於テハ兒カ先生ノ如キ師傅ヲ得
ヘキ時ニ於テ生レタルカ爲ニ謝スルヲノ深キ
ニハ若カズト曰ヘル一文ヲ加ヘタリト云フ亞

勒山得其ノ師ニ事ヘテ禮敬ヲ盡シ常ニ人ニ語
リテ「余ハ亞理士董篤兒ヲ愛スル」父ニ減セズ
何トナレハ生ハ父ノ賜ニシテ生ヲ保ツノ術ハ
師ノ賜ナレバナリト曰ヘリ亞理士董篤兒ノ外
自ハ人ノ仰慕ヲ來タスニ足ラス軀幹短矮ニシ
テ羸瘦シ眼微小ニシテ容貌滑稽者ニ似タル者
アリ其ノ言語又流通ナラス其ノ智識ハ索克拉
的ヨリ傳ハリタル者多シ亞理士董篤兒ハ親シ
ク索克拉的ノ教授ヲ受ケシ者ニ非ザレバ索克
拉的ノ親友ナルフラトローノ弟子タリフラトロー

ハ索克拉的ガ没セレ後ニ亞地拿ニ於テ公然ト
教授シタル賢學士ナリ亞理士董篤兒ハ緊要ナ
ル諸件ニ因テフラトロート其ノ持論ヲ異ニスル
所アレバ宇宙ノ間ニ一大神アリテ萬物ヲ主宰
スルト謂フニ至テハ二氏ノ信スル所相同シ亞
理士董篤兒ハ博物學醫學及天變地異ノ理ニ精
シクシテ其ノ動物記ハ其ノ卓越ナル著書ノ一
ナリプラトローハ多ク人心ニ關係スル諸件ヲ考
究シテ教授セリ亞理士董篤兒ハ亞勒山得ニ教
訓シタリシ後亞地拿ニ歸リテリシウムト云ハ

ル所ニ退居シ其周圍ノ樹蔭ノ地ヲ逍遙シツ、
 諸生ニ講説セリ是ノ故ニ世人亞理士董篤兒ノ
 徒弟ヲ呼ヒテペリパラチツクト云フペリパテ
 チツクハ逍遙スル人ト云フ義ナリプラトールハ
 諸方ニ歷遊シ其ノ亞地拿ニ在リシキハアカテ
 ミト云ヘル所ニ教授セリアカデミノ體裁ハ稍
 リシウムノ如シト云フ

馬基頓ノ非立カ死セレキニ方リテ亞勒山得ハ
 僅ニ二十歳ナリシカニ其ノ人君タルニ堪ヘタ
 ルト多年政柄ヲ執レル許多ノ帝王ニ愈レル所

アリ其ノ人トナリ寛仁大度ニシテ勇悍豪邁ナ
 リ其ノ名譽ヲ貪リ武功ヲ好ムハ亞勒山得ノ大
 本志ナリト雖吾人モシ其ノ教育ノ何如ヲ商量
 スルキハ其ノ功名ノ心ヲ以テ深ク亞勒山得ヲ
 罪ス可カラズ父王非立多年領地ヲ擴ムルヲ
 務メ又亞勒山得ノ幼時ヨリ從侍セル左右ノ人
 モ亦其ノ武功ヲ愛スル天性ヲ獎勵シタリ亞理
 士董篤兒スラ蓋己ニ其ノ心裏ニ蓄藏スル志望
 ヲ認識シタラメ凡曾テ之ヲ制止スルコト無キ
 ヲ知リタリ非立カ世ニ在リシキ波斯ノ使節馬

基頓ニ來レリ時ニ亞勒山得ハ波斯ノ朝廷ノ宏壯ナルト園庭ノ美麗ナルト大君ノ驕奢逸樂ノ狀ニツキ一問ヲ發セスレテ只兵勢ノ強弱地理ノ遠近道路ノ善惡如何ヲ問ヒレカバ波斯ノ使者ハ非立カ隱然タル黠智ニシテ亞勒山得ノ顯然タル野心ナルヲ恐愕レテ本國ニ歸リタリト云フ

今非立己ニ死シテ復亞勒山得ガ功名ノ欲ヲ逞シクスルトヲ妨クル者ナシ是ニ於テ亞勒山得ハ乃馬基頓王ニ奉戴セラレタリ特摩西尼士ハ

務テ人民ヲ煽動シテ希臘ノ自由ヲ求メレメントシタレ凡人民深クケイロニヤノ敗衄ニ懲リテ斯カル威カアル君ニ向ヒテ容易ニ亂ヲ唱フルトヲ肯ンセス是ノ後一タビ叛亂ヲ謀リタルコト有レトモ亞勒山得之ヲ聞キ直ニ自希臘ニ進ミレカバ希臘人之ヲ見テ大ニ怖レ敢テ共ニ敵セスレテ其ノ激怒ヲ慰ムル所以ノ者ヲ求メタリ是ノ如クシテ百事皆亞勒山得ノ意ノ如クナラサル者ナク希臘列國ノ委員非立ノ曾テ召集セシカ如ク哥林西ニ會集セシキニ士巴爾達

ノ外各國ノ同意ニ由リテ希臘ノ諸軍ノ總督ト仰カレタリ

亞勒山得カ世ニ在ル間ハ抵抗ノ念ヲ起スル得ベカラス但哥林西ノ集會ノ後久シカラステ亞勒山得馬基頓ノ西北ノ諸國ヲ征代シテ國ニ居ラサリシキ其ノ死セリト云ヘル傳聞アリ德巴斯亞地拿ノ二國人直ニ馬基頓ノ羈絆ヲ脱セシコトヲ謀リ其ノ國ト戰爭ヲ開カンテヲ宣告セリ然ルニ人皆死シタリト思ヒレ亞勒山得忽兵ヲ率井テ德巴斯ノ都門ニ現レ都城ヲ陷レ周

壁ヲ毀チテ平地トシ住民ヲ虜ニシテ奴隸ニ賣リタリ是ノ時破毀ヲ免レタル者ハ唯神堂ト德巴斯ノ詩人ヒンダルノ家トノミナリ

此ノ暴舉ハ多クハ亞勒山得ニ連衡セル希臘諸國ノ中ニ德巴斯ノ舊仇アリテ斯ク德巴斯人ヲ虐待スベキヲ勸説セシニ由リテ起レリ自餘ノ希臘人ノ力爲ニ寒心シ亞地拿人ハ速ニ使者ヲ遣シテ寬宥ヲ請ヒシカバ亞勒山得懇切ニ此ノ使者ヲ待遇セリ蓋亞勒山得ノ本志ハ亞細亞ニ在レハ其ノ亞細亞ニ在ルキニ背叛スベキ仇

敵ヲ作スヲ欲セサルナリ波斯攻撃ノ大意ハ父
 王ノ心中ニアリシカ如ク亞勒山得ノ心中一日
 モ之ヲ忘レズ遂ニ其ノ意ヲ達スベキ時期至レ
 リ
 紀元前三百三十四年ノ春亞勒山得歩兵三萬騎
 兵五千ヲ率ヒ其ノ出帥前ニ貯藏ノ財貨ヲ親信
 ノ人ニ分與シ只些少ナル金貨ヲ齎シテ黑勒斯
 奔ノ海峽ヲ渡リテ亞細亞ニ上陸セリ此ノ軍備
 ハ澤耳西カ希臘ヲ征服センカ爲ニ集メタル者
 ニ比スレハ甚稀少ナリ然レモ亞勒山得自信ノ

精神アリ其ノ財貨ヲ親友ニ分チシ片或ル人亞
 勒山得ニ王ノ財貨中ニ於テ其ノ自取レル者ハ
 何物ゾト問ヒシカバ亞勒山得ノ對ハ期望ナク
 トイヘル一語アリ
 亞勒山得ノ全軍ノ中ニ希臘人ハ僅ニ七千人ア
 ルニ過キザリケレバ亞細亞征伐ノ事蹟ハ殆ト
 希臘ノ史記ニ屬セサル者ノ如シト雖其ノ事蹟
 赫ヤトシテ大ニ世ニ著ル、カ故ニ爰ニ其ノ概
 略ヲ記スモ贅言ニ屬セザラン

第三十八篇

是ノ時波斯國ニ王タル者ハダリウスコドマニ
ユスト云ヘル人ナリ此ノ人ハ前王ノ子ニ非ザ
レ氏王族ノ一人ナルヲ以テ一大臣ノ勢力ニ由
リテ王位ニ昇レリダリウスコドマニユスハ大
才能アリテ甚人望ヲ得タリ波斯ノ列王ハ廣大
ナル版圖ヲ領スレ氏其ノ諸州郡ハ殆ト國王ノ
統轄ニ屬セザル者ノ如クシテ一事業ヲ爲サン
カ爲ニ共ニカヲ合ハスルヲ甚稀ナレハダリウ
ス王名ハ大國ノ主タリト雖其權力實ニ小邦ノ
君ニ如カザル所アリ

然レ氏ダリウスハ大軍ヲ募集スルヲ得テ馬
基頓人カ侵入シタル新報ノ達セシキ亞勒山得
ヲ拒カンカ爲ニ大軍ヲ送リテ老練ノ大將ヲシ
テ之ヲ率井シメ且自之ニ繼カントシタリ然レ
氏亞勒山得ノ成功ハ侵入ノ初度ヨリシテ現レ
タリ小亞細亞ノ沿海ノ希臘諸邑皆亞勒山得ニ
心ヲ傾ケ亞勒山得諸邑ヲ經過スルキ皆服從セ
サルハナシ初メテ波斯人ト戦ヒシハプロポン
チス即今ノマルモラ海ニ流注スルミシアノ一
小河クラニクユスノ岸上ニ於テセリ亞勒山得